

自然と歴史文化がいまど
自分らしさに出会える場所

ヤビツ峠・蓑毛周辺 魅力向上計画



令和5年(2023年)8月
秦野市

目次

はじめに	01
第1章 計画の策定に当たって	07
1 計画策定の趣旨	07
2 計画の位置付け	07
3 計画期間	08
4 計画の対象エリア	09
第2章 ヤビツ峠・蓑毛周辺の概要	10
1 ヤビツ峠・蓑毛周辺の特徴	10
2 ヤビツ峠・蓑毛周辺を取り巻く環境と課題	17
第3章 ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画	26
1 ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿	26
2 ヤビツ峠・蓑毛周辺のポテンシャル	31
3 計画のコンセプト	34
4 基本方針と施策体系	35
5 個別施策	37
第4章 計画を実現するために	54
1 推進体制	54
2 進行管理の考え方 (PDCA)	55

表紙の「OMOTAN」のロゴマークについて

「OMOTAN」は、表丹沢の略称であるとともに、「面白い」や「楽しい」の語感を組み合わせたキャッチフレーズです。「M」と「A」を表丹沢の山々に見立て、ブルーは名水、グリーンは豊かなみどり、ピンクは桜などの花を表現しています。

はじめに

ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画(以下、「本計画」)は、令和2年度(2020年度)に策定した「表丹沢魅力づくり構想」における表丹沢東エリアの県道70号沿いを中心とするヤビツ峠・蓑毛周辺エリアの具体的なアクションプランを示すものです。

自然や歴史文化をはじめとする大切な地域資源を次世代に残しながら、より魅力があふれる地域をどのように創っていくのか、地域に暮らす人、地域で働く人、地域に関わる人と共にたくさんの意見やアイデアを出し合い取りまとめました。

次頁からの文章と絵は、約3年後の令和8年(2026年)のヤビツ峠・蓑毛周辺エリアが、「こうなっていたらいいな」、「こうしていきたいな」というみんなの思い描く姿を物語風にまとめたものです。

現時点では、あくまで3年後の理想の姿ですが、市民や活動団体、民間事業者、行政が思いを一つにして本計画に示した施策に取り組むことで、「本当に実現できた」、「今まで以上に愛着と誇りの持てる地域になった」と、みんなで喜びあえるものになることを目指していきます。

それでは、3年後のヤビツ峠・蓑毛周辺エリアのある1日を覗いてみましょう。



令和8年(2026年)のある日

森林セラピー^{※1}を体験しに蓑毛地区に訪れた森里さん。普段は都心で働きながら、3人の子育てに奮闘しています。多忙な日々疲れを感じ、何かリフレッシュできることはないかと探していた時に、森林セラピーの秦野市公式ガイドである友人の林さんに誘われ、緑水庵にやってきました。林さんは、このエリアに住む専業主婦です。自分と社会のつながりや収入が欲しいと考えていた時に、秦野市が開講するガイド人材育成講座の存在を知り、座学や実践を経て秦野市公式ガイドになりました。ガイドとして過ごす中で、この地域の豊かな森林資源が持つ癒しの力を学んだり、一緒にガイドをする仲間やお客様と交流したり、ガイドで得た収入から自分にちょっとしたご褒美を買ったり...充実した日々を送っています。

【基本方針 4-2】ガイド人材の育成講座の実施

「森林の香り成分のフィトンチッドに癒し効果があって、森の中で過ごすことでストレスも軽減されるんだよ。最近では、国内の企業も社員のメンタルヘルス対策として森林セラピーを取り入れていて、この前も東京の企業が体験しに来たのよ。」林さんはそう案内しながら、緑水庵を出発し、森林セラピーロードである御師の里から春嶽湧水まで歩き始めました。日々の忙しさから離れ、御師の里や大日堂で地域の歴史文化を学んだり、森の中でヨガをしたり、落花生や青パイア等の地場食材を使用したセラピー弁当を食べたりしながら森林セラピーを体験したことで、森里さんは心と身体が癒され、「また疲れたらここに来よう。明日からも頑張ろう!」と活力をチャージすることができました。林さんもそんな森里さんを見て、「ガイドになってよかった。もっとこの地域の魅力を発信しながら、たくさんの人に癒しを届けていきたい」と思いながら、一緒に緑水庵に戻って行きました。【基本方針 1-1】滞在型コンテンツの造成、【基本方針 1-3】特産品や食コンテンツの開発

森里さんたちが緑水庵に戻ると、新しく整備された駐車場にはたくさんの車が止まり、にぎわっています。緑水庵とその隣にある蓑毛自然観察の森は、地域住民や登山者、サイクリストなど、様々な人々に交流休憩拠点として利用されており、今日は地場食材の販売をする地元農家や蓑毛自然観察の森を散歩している観光客がいました。また、緑水庵は Wi-Fi環境も整備されており、縁側では首都圏から来ている人がテレワーク^{※2}を

しています。緑水庵はこれまで駐車場が少ないこともあり、多くの人々が利用しにくいことが課題としてありましたが、駐車場や蓑毛自然観察の森、Wi-Fi環境等が整備されたことで多くの人々が滞在し、交流できるようになり、地域のにぎわいが生まれています。

【基本方針 2-1】滞在拠点の整備・充実

※1 森林セラピー:科学的な証拠に裏付けされた森林浴のことで、森を楽しみながらこころと身体健康維持・増進、病気の予防を行うことを目指す取組み。NPO法人森林セラピーソサエティの登録商標。

※2 テレワーク:ICTを活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。「tele=離れた所」と「work=働く」を組み合わせた造語。

秦野名水 春嶽湧水

緑水庵の広場で休憩していたサイクリストの大島さんは、自転車に乗り、県道70号の急峻な坂道を上っていきました。趣味がサイクリングで、ヤビツ峠にも何回も訪れたことがある大島さんですが、今日は、**表丹沢林道から菩提林道でサイクリングイベントが行われることをSNS^{※3}で知り**、そのイベントに参加するためにやってきたのです。これまで林道は安全面や不法投棄の問題から利用が制限されていま



したが、**林道管理者や民間事業者が連携しながらルール作りや安全対策を講じ**、イベントが開催されるようになりました。

【基本方針 1-2】林道を活用したイベントの充実、【基本方針 5-1】観光情報等の充実

緑水庵からヤビツ峠に向かう途中の県道 70 号沿いは、かつて**道路にせり出して危なかった木々や道路脇に積もった土砂などがボランティアによりきれいに整備**されています。

【基本方針 3-3】道路環境の充実

また、**来訪者に対して自転車の安全走行やゴミの持ち帰り等のマナーについて周知・啓発**しており、安全できれいな環境が維持されています。「前にこの道を走った時は車やバスとすれ違うのが怖かったけど、今はお互い安全にすれ違える。そしてヤビツ峠から見える景色も素敵で、ここは**日本一きれいな峠**で走っていて気持ちがいいな」と感動しました。(【基本方針 5-2】マナー等の情報発信の充実)

走り続けていると、途中で菜の花台園地が見えてきました。**菜の花台園地は、周辺の森林が整備されて見晴らしがさらに良くなり、新しくサイクルラックも設置されたため**、サイクリストにとって人気の写真スポットになっています。大島さんはせっかくなので写真を撮ってしようと、イベントの前に菜の花台園地に立ち寄ることにしました。(【基本方針 2-1】滞在拠点の整備・充実、【基本方針 2-3】眺望・景観の整備)

菜の花台園地には、既に秦野市内と相模湾から江ノ島まで一望できる眺望を楽しんでいる人々がいました。**菩提方面から菜の花台園地まで整備された散策路**を登ってきたハイカーの山口さんもその一人です。山口さんは菩提方面から登ってきたため小腹が空き、何か飲食できるものはないかと探していたところ、**菜の花台園地の一角で秦野の特産品である落花生と名水を使用して作られたピーナッツスムージーが販売されているのを見つけました**。

【基本方針 2-1】滞在拠点の整備・充実、【基本方針 1-3】特産品や食コンテンツの開発

それを飲みながら**事前に予約していたオンデマンド交通^{※4}を待つ**ことにしました。

※3 SNS:Social Networking Service の略。
インターネット上で社会的なネットワーク(つながり)を提供するサービス。

※4 オンデマンド交通:利用者による予約や要望があった時にのみ運用する公共交通システム。



これまでこのエリアでは午後にヤビツ峠を往復できるバスの便が少なく、周遊しにくいことが課題でしたが、**オンデマンド交通の実証実験を経て**、本格運用がスタートしたことで、交通の利便性が高まりました。「今まではバスの時刻表に合わせて限られた時間で登山をしていたけど、オンデマンド交通の車のおかげで、行きたいときに行きたいところを周ることができて、色々な楽しみ方ができるようになったなあ」と思っていたところに車が到着し、山口さんは乗車してヤビツ峠に向かっていきました。**【基本方針 3-2】周遊型交通サービス等の検討**

山口さんはヤビツ峠に到着して車から降りると、そこからさらに奥の森に歩いて行きました。丹沢の森はこれまで市民や活動団体、民間事業者、行政など多くの人たちの協働により、多様な生命を育む森林の再生のための植樹や間伐等が行われています。山口さんが歩いていると森の中に人が集まっているのが見えて、何をしているのか聞いてみました。首都圏の企業の社員が**地域課題解決型プログラム**に参加しており、どうすればこの自然環境をより良くしていけるかを地域の人たちと一緒に考えているようです。このプログラムは、社員が環境やSDGs^{※5}に対する意識を高めることはもちろん、地域の課題を知り、会社や自分たちがどのような貢献ができるかを考える機会となっており、社内研修や異業種交流のイベントなどに活用されていることが分かりました。また、地域の人たちにとっても、社員と交流を深める中でビジネス視点でのアイデアを学ぶことができ、地域の新しい可能性を探る機会になっているようです。そして「このプログラムが終わった後は、青山荘で焚き火を囲みながらみんなでご飯を食べるんだ」と楽しそうに話してくれました。山口さんはこの地域は面白い取組みをしているなと感心しながら、また歩き始めました。**【基本方針 1-1】滞在型コンテンツの造成**



山口さんが乗ってきた車は、別のお客様を乗せるため、ヤビツ峠レストハウスの前の駐車場で待機していました。運転手の田中さんはトイレに行きたくなり、駐車場の横にある公衆トイレに行くと、以前より**キレイに改修されており、だれもが快適に利用できるようになっていました**。**【基本方針 2-2】トイレ環境の充実**

田中さんが車に戻ると、ちょうどヤビツ峠レストハウスから次のお客様の沢野さん一家が出てきました。沢野さんたちは、午前中から、大山まで登山をした後、ヤビツ峠レストハウスで人気のカレーを食べてゆっくりしていたようです。沢野さんたちが車に乗り、蓑毛方面に県道 70 号を下っていくと、**宝蓮寺付近に**

小さな木が植えられているのが見えてきました。家族で「あれは何だろう」と話していると、運転手の田中さんが「訪れた人たちに道路沿いの景色を楽しんでいただけるように、ボランティア等がサクラやモミジを植えているんです。数年で大きく成長すると思いますよ。」と教えてくれました。沢野さんたちは、「子どもたちが大きくなったらまた家族で見に来たいね」と、またここに来ることを楽しみにしながら秦野駅に戻り、駅でお土産を買って電車で帰っていきました。

【基本方針 2-3】眺望・景観の整備

※5 SDGs(持続可能な開発目標):2015年9月に国連サミットにおいて採択された、2030年までに達成すべきゴールを定めた、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。



秦野駅では、早坂さんが友人とE-bike※6をレンタルしています。

【基本方針 3-1】レンタサイクルの検討

早坂さんは以前、国登録有形文化財の大日堂に訪れたことがあり、木造大日如来坐像や木造五智如来坐像に感動して蓑毛地区のファンになっていました。今回は、蓑毛のことをSNSで調べていたところ、インフルエンサー※7が蓑毛で行われている期間限定レストランに訪れている動画を見つけ、友人を誘って訪れたのです。

【基本方針 5-1】観光情報等の充実

普段あまり運動しない早坂さんも、E-bikeで上り坂を楽々と上ることができ、風景を楽しみながらあっという間にレストランに到着しました。このレストランは、秦野市が実施した、地域で何か挑戦することや起業・副業に興味のある市外の人たちと地域住民と一緒に、地域の課題を解決する事業を提案するというプログラムの中で、地域の遊休資産をどのように活用するかをテーマに提案された事業の一つから、期間限定のイベントとして実現したものです。【基本方針 4-3】地域住民や外部人材を巻き込む仕組みづくり

早坂さんたちがレストランに入ると、スタッフとして働く地域住民の水田さんが「いらっしゃいませ!」と笑顔で声をかけてくれました。水田さんは、ヤビツ峠・蓑毛周辺エリアの魅力を高めていくために地域の中心となって活動しているコーディネート組織「ヤビツ峠・蓑毛未来会議(仮称)」のメンバーです。この組織では、地域団体や民間事業者、行政等が横断的に協力しながらプログラムの提供やイベントを開催したり、時には地域住民や交流人口・関係人口から地域への意見や要望を集めて、地域でどんな取組みを進めていくかを検討しています。この組織によって、地域内の団体の連携が図られ、新しい体験コンテンツづくりや観光情報の拡充にもつながっています。【基本方針 4-1】包括的な推進体制の構築

早坂さんが水田さんと話していると、地域の空き家や耕作放棄地、雑木林等の遊休資産が色々なイベントや体験に活用されており、このレストランも空き家を利用し、メニューには耕作放棄地を活用した農業体験で採れた野菜等が使用されていることを教えてくれました。

【基本方針 2-4】遊休資産の活用と鳥獣被害対策

※6 E-bike:スポーツバイクの走行性能と電動自転車のアシスト機能をもつ自転車のこと。

坂道などでは、電動アシスト機能で楽に走ることができる。

※7 インフルエンサー:世間を与える影響力が大きい行動を行う人物のこと。



このレストランには、水田さんの他にも組織メンバーの数人がスタッフとして働きながら、お客様を丁寧にもてなしています。そのおもてなしや交流の中で、人と人、人と地域のつながりが生まれ、店内もにぎわっています。水田さんたちは、このような様々な地域の取組みに参加する中で、地域の魅力を再発見したり、新しい出会いに喜びを感じたり、この地域に住んでいて良かったと感じています。早坂さんたちも、地域の温かいおもてなしに心地良さを感じながら、ヤビツ峠・蓑毛周辺エリアの魅力を堪能し、また来ようと思いながら帰って行きました。



ヤビツ峠・蓑毛周辺エリアには、丹沢大山国定公園やそのすそ野に広がる里地里山の豊かな自然や大山信仰の拠点としての歴史文化など、魅力的な地域資源がぎゅっと詰まっています。そこでは、地域の人々や訪れる人々が地域資源を大切にしながら、様々な取組みを行い、喜びや幸せを共有する時間を過ごしています。

これはまだ作られたフィクションの物語です。みんながお互いのこと、地域のことを想いながら協力して本計画に示すアクションプランに取り組むことで、実現される未来の姿かもしれません。

みんなでヤビツ峠・蓑毛周辺の自然、歴史文化を守りながら、自分たちが幸せになれる魅力ある地域づくりに取り組んでいきましょう。

第1章 計画の策定に当たって

1 計画策定の趣旨

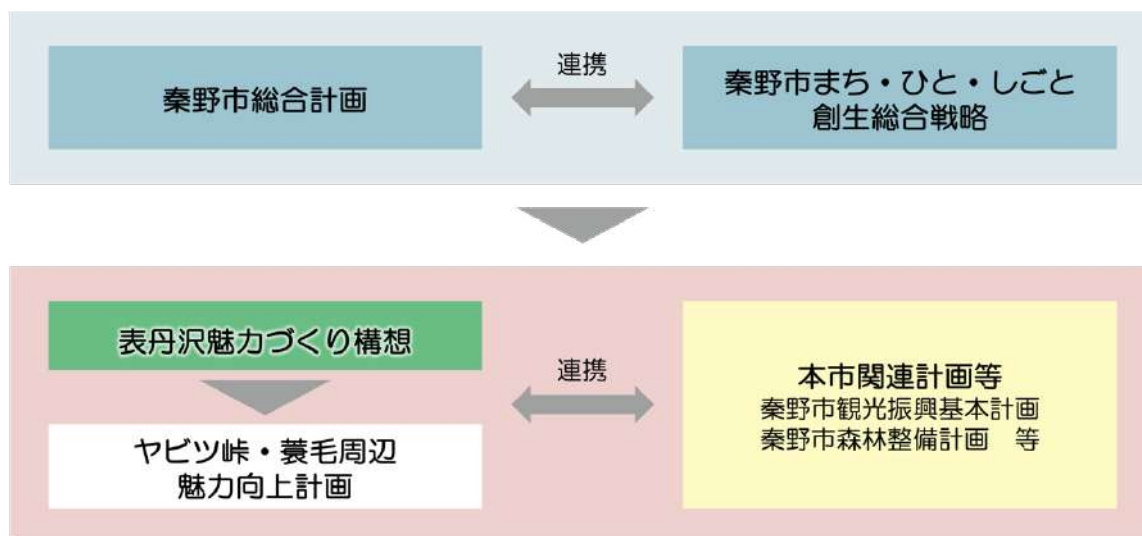
本市は、新東名高速道路の開通により、首都圏などからのアクセスがさらに向上することを生かし、表丹沢に点在する様々な分野の資源を磨き、つなげ、新たに触れる機会を増やすことで、一層の魅力向上を目指すため、令和2年（2020年）9月に「表丹沢魅力づくり構想」を策定しました。

構想の具現化を図るためには、構想に掲げた5つの基本方針やエリア別方向性に加え、市民、関係事業者、関係行政機関等のニーズや意向等を踏まえるなど、事業を実施する多くの主体とともに、より具体的に実施する事業を検討し、明確にする必要があります。

こうした背景の下、構想に掲げる表丹沢東エリアの県道70号沿いを中心としたヤビツ峠・蓑毛周辺エリアを対象に、魅力や課題を踏まえ、具体的な実施事業を明確にするとともに、表丹沢の豊かな自然の保護と利用の好循環と、点在する様々な資源の活用により、持続可能な地域を創出するため、本計画を策定しました。

2 計画の位置付け

本計画は、「表丹沢魅力づくり構想」のアクションプランとして位置付けます。また、「秦野市総合計画」、「秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」といった上位計画をはじめ、「秦野市観光振興基本計画」など各種関連計画との整合を図るとともに、丹沢大山国定公園に関する施策やSDGsの理念等を踏まえた具体的な施策を明らかにすることにより、ヤビツ峠・蓑毛周辺エリアの課題解決に向けた取組みを推進するものです。



また、公的主体である行政と民間主体である市民や関係事業者等の幅広い関係者が、地域の課題やその解決に向けた施策の方向性など、共通のビジョンを共有しながら、総合的に取り組むことを目指します。具体的には、「自然や歴史文化資源を保全・再生し、その魅力を来訪者に体験してもらう取組み」、「来訪者と地域が長く結びつくための取組み」、「地域と来訪者をつなぐ活動体の形成・充実を目指す取組み」などについて、それぞれの立場から検討するなど、公民連携による地域づくりを進めるための計画として位置付けます。

公民連携による地域づくりのイメージ

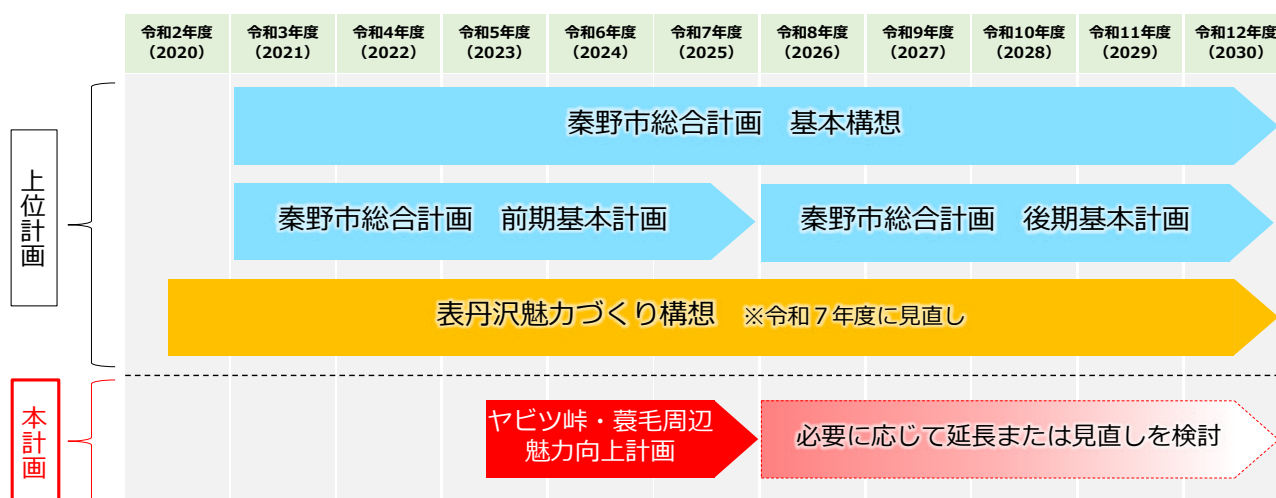
- ビジョンの共有
- 自然資源、観光資源の保全・活用
- 滞在コンテンツの充実
- 滞在環境の魅力向上
- 移動の利便性向上
- 情報提供の充実・強化
- 安全性・品質の確保
- 担い手の確保、人材育成
- 受け入れ体制の整備 など

持続的な魅力の向上

- <市民・活動団体、民間事業者>
 - 健康で文化的な豊かな暮らし
 - 地域への愛着・誇り
 - 生きがいの創出
 - 新たな雇用と収入機会の創出など
- <来訪者>
 - 精神的な充足感・満足感
 - 親しみの持てる場所・大切にしたい場所・第2のふるさとなど

3 計画期間

本計画の期間は、表丹沢魅力づくり構想の見直し時期に合わせた令和7年度（2025年度）末までとします。なお、施策の進行状況や社会情勢の変化などを鑑み、必要に応じて延長または見直しを検討します。

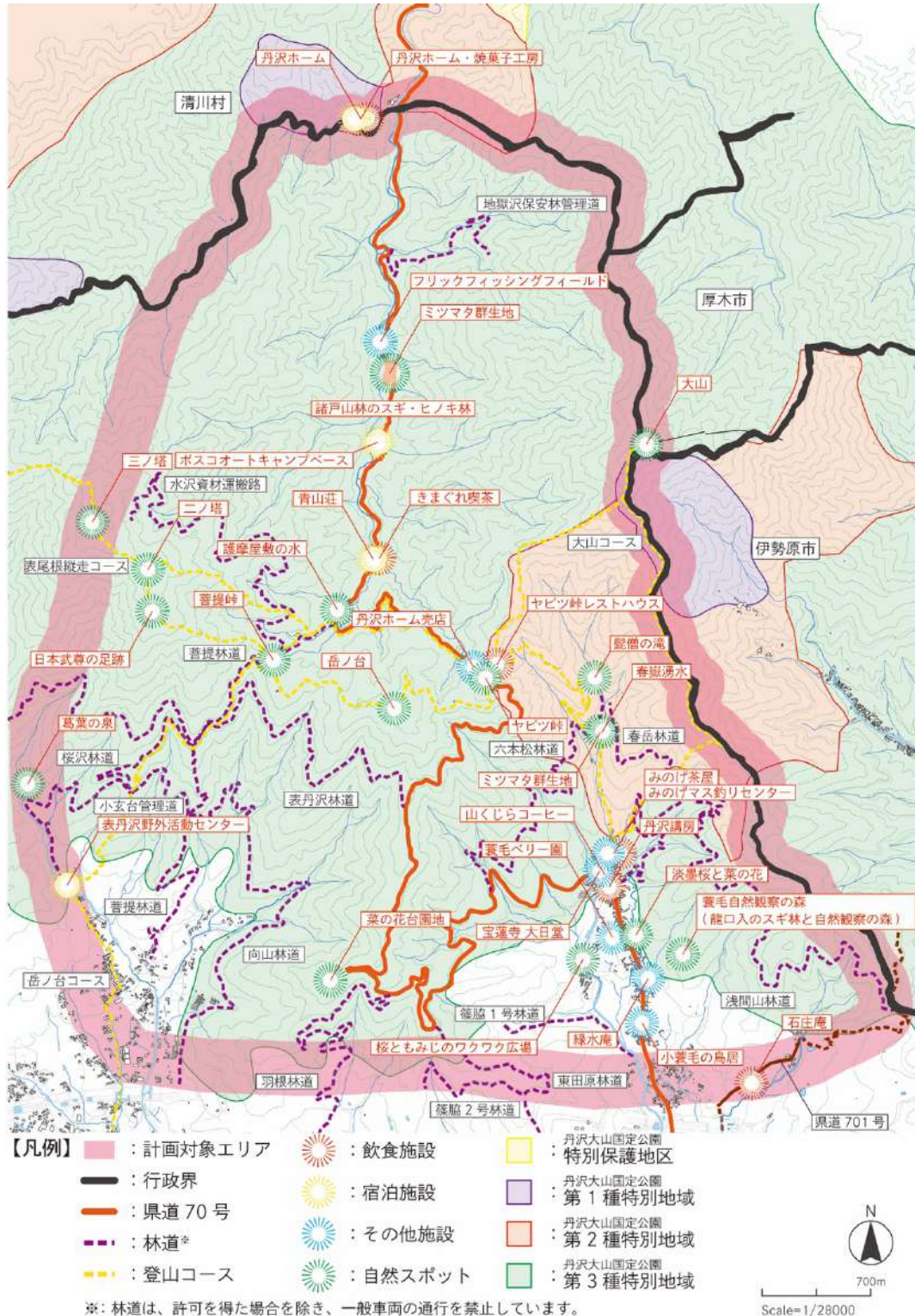


第2章 ヤビツ峠・蓑毛周辺の概要

1 ヤビツ峠・蓑毛周辺の特徴

本エリアの資源や特徴などについて、次のとおり整理します。

■主な資源マップ



(1) 都心から訪れやすい立地

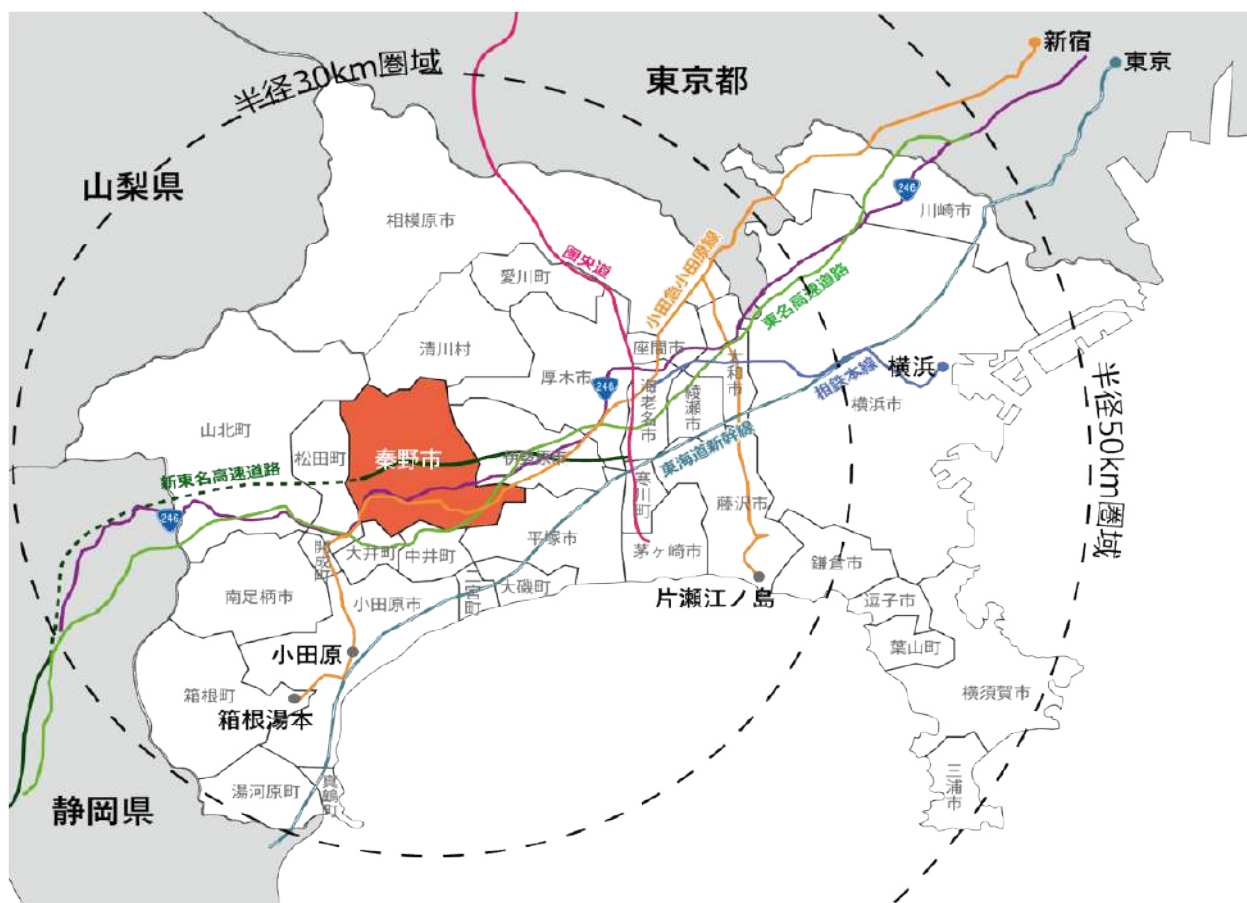
本エリアは、東京都内や横浜などの人口が多い都心からのアクセスに優れています。

公共交通機関を使用する場合は、秦野駅までは、小田急小田原線「新宿駅」から約1時間、相鉄本線「横浜駅」から約50分、小田急小田原線「小田原駅」から約20分、また、秦野駅から蓑毛までは約25分、ヤビツ峠までは約50分でアクセスが可能です。

自家用車を使用する場合は、東名高速道路秦野中井ICまでは、東京ICから約40分、横浜町田ICからは約30分、また、秦野中井ICから蓑毛までは約20分、ヤビツ峠までは約40分でアクセスが可能です。

さらに、令和4年(2022年)4月に開通した新東名高速道路秦野丹沢スマートICからも蓑毛までは約20分、ヤビツ峠までは約40分で訪れることができます。

■秦野市の位置



(2) 豊かな自然環境

ア 多様な立地環境が生み出す大自然と里地里山

本エリアは、そのほとんどが丹沢大山国定公園に指定されており、標高がそれほど高くなくても急峻な地形のため多様な立地環境を有しています。そのため、都心から訪れやすい立地にありながら、豊かな自然環境が残っており、ニホンジカやカモシカなどの大型哺乳類のほか、オオルリなどの夏鳥やクマタカなどの猛禽類も棲息するなど、多くの生き物が命を育んでいます。



オオルリ（提供：はだの野鳥の会）

エリアの南側の蓑毛周辺は、丹沢から続く森林や農地、金目川などを背景とした里地里山が広がっています。

これらの豊かな自然環境を次の世代に引き継ぐため、市民や活動団体、民間事業者、行政など多くの人たちの協働により、多様な生命を育む森林の再生のための植樹活動や、耕作放棄地を活用した田植え体験など、自然や里地里山を保全・再生する取組みが進められています。



菩提峠での植樹活動

イ 市民自慢の地域資源「秦野名水^{※8}」

表丹沢の森林が育んだ地下水は、微生物やミネラルの働きで、時間をかけてきれいでおいしい水となり、市内の各所から湧き出ています。豊富で良質な湧水は、「秦野盆地湧水群」として昭和の名水百選に選ばれ、平成28年（2016年）に環境省が行った「名水百選選抜総選挙」では、「おいしさが素晴らしい名水部門」において、ボトルドウォーター「おいしい秦野の水～丹沢の雫～」が全国第1位に輝きました。

本エリアでは、「春嶽湧水」や「護摩屋敷の水」が代表的なものとなっているほか、民間施設でも湧水を楽しむことができ、登山客やハイカーなどに親しまれています。



護摩屋敷の水

このように市民自慢の地域資源である「秦野名水」は、市民生活を支える水道水源であり、また、名水に直接触れ、親しむことができる「OMOTAN名水スポット^{※9}」は、観光資源としての役割も注目されています。

※8 秦野名水：秦野市域に存在する地下水を水源とする水の呼称で、市民共有の財産として先人達から受け継いできた誇りと名水百選の地としての水の価値をわかりやすく表現したもの。

※9 OMOTAN名水スポット：表丹沢エリア内にある、名水ゆかりの「湧水地」「せせらぎ」「水汲み場」等の総称。他にも「髭僧の滝」「竜神の泉」「葛葉の泉」「黒竜の滝」などがある。

ウ 大パノラマの雄大な眺望と自然豊かな美しい景観

本エリアには、三ノ塔や大山などの1200m級の山々のほか、菜の花台園地や菩提峠など、眺望に優れた場所が多くあり、東には広大な関東平野、南面眼下には太平洋、西には富士山と大パノラマの雄大な景色を望むことができます。特に菜の花台園地からの朝日や夕焼け、夜景は美しく、多くの観光客が訪れています。

また、ミツマタの群生地や日本三大桜の一つである淡墨桜などの桜、宝蓮寺周辺や緑水庵などの紅葉のほか、かながわの美林50選に選ばれる「諸戸山林のスギ・ヒノキ林」や「龍口入のスギ林と自然観察の森」など、自然豊かな美しい景観を楽しむことができます。



菜の花台園地



淡墨桜と菜の花

(3) 多様なアクティビティ※10

ア 南関東有数の登山スポット

丹沢は、登山初級者から上級者まで対応した様々な登山が楽しめ、登山口へのアクセスが比較的優れています。そのため、南関東有数の登山スポットとして、東京や横浜等の首都圏から毎年多くの登山客が訪れており、ヤビツ峠と蓑毛はその登山口になっています。

ヤビツ峠からの代表的な登山コースとして、塔ノ岳までの表尾根の展望を満喫しながら本格的な登山が楽しめる「表尾根縦走コース」やハイキング気分で散策できる「岳ノ台コース」があります。また、大山へ続く「大山コース」は、蓑毛とヤビツ峠の両方の登山口から登ることができます。

ヤビツ峠には、その活動拠点及び情報発信拠点として、昭和30年代前半から親しまれている「丹沢ホーム売店」と令和3年(2021年)3月にオープンした「ヤビツ峠レストハウス」があり、登山者やサイクリストが丹沢の自然環境やアクティビティについて理解を深める場としても利用されています。また、近年は、トレイルランニングや沢登りを楽しむ人も増えています。



ヤビツ峠レストハウス

※10 アクティビティ：「活動」や「活気」という意味の英単語。特に観光地等での様々な遊びや体験についていう。

イ ヤビツ峠のヒルクライム^{※11}

国道246号からヤビツ峠をつなぐ県道70号はその急峻な地形から、ロードバイク等の自転車で坂を上るスポーツであるヒルクライムの名所として、多くのサイクリストで賑わっています。

平成30年（2018年）には、県道70号や桜沢林道等を活用した競技イベントのコースとして、利用されています。

また、令和4年（2022年）からは、羽根林道をコースの一部としたヒルクライム教室等のイベントや、サイクリストによる県道70号の清掃活動が定期的に行われるなど、安全面と環境に配慮したサイクリング文化が醸成されつつあります。



ヤビツ峠 ヒルクライム教室（羽根林道）



県道70号の清掃活動

ウ 豊かな自然や歴史文化等を生かした森林セラピー

本市は、令和2年（2020年）4月に、市全域が「はだの表丹沢森林セラピー基地」として、また、5つのコースが「森林セラピーロード」として、NPO法人森林セラピーソサエティから認定されました。

本エリアには、緑水庵から春嶽湧水付近まで続く「蓑毛・春嶽湧水コース」があります。コース上には、美しい里地里山の風景や大日堂などをはじめとする歴史文化資源が点在しており、さらに北側には、春岳沢の清流と針葉樹の森が広がるなど、これらを五感で感じながら、ゆったり散策することで、心身のリフレッシュ効果が期待できます。

また、森林セラピーガイドの案内によるイベントも行われており、森林でのハンモックやヨガ、アロマオイルの抽出などの体験も提供されています。



森林セラピー

※11 ヒルクライム：峠や山道の決められたコースを、ロードバイクを中心としたスポーツバイクで登る競技もしくは乗り方のこと。

エ 蓑毛周辺のハイキングコースと大山道

蓑毛周辺には、蓑毛バス停を出発地として、伊勢原市の日向薬師方面に進む「関東ふれあいの道（大山参り蓑毛のみち）」や、緑水庵を出発地として髭僧の滝等を目指す「てくてくウォーク in 蓑毛」といったハイキングコースが整備されています。また、江戸時代に大山への参詣者が歩いた古道である大山道も残っており、ウォーキングや登山を通じて周辺エリアの文化や自然を楽しむことができます。



「大山参り蓑毛のみち」のコースにある常夜灯（右に行くと大山方面）



「てくてくウォーク in 蓑毛」のコースにある桜ともみじのワクワク広場付近

オ 地域資源を活用したイベント等の開催

本エリアでは、植樹や間伐等の森林整備体験や子どもを対象にした環境学習、野菜づくりなどの農業体験といったイベントが開催されています。これらの体験を通じて、自然環境や食に関わる学びを深めることができます。

また、淡墨桜や緑水庵の紅葉のライトアップ、山々やハイキングコースを回るスタンプラリー、宝蓮寺や大日堂などの歴史文化資源を活用した座禅体験や仏像の拝観、閻魔詣など、市民や活動団体、民間事業者等により、様々なイベントが開催されています。



森の学校
(出典：NPO 法人丹沢自然保護協会ホームページより)



田植え体験
(出典：小田急電鉄(株) ホームページより)

カ 民間施設のアウトドア体験

本エリアの民間施設である「青山荘」や「ボスコオートキャンプベース」、「みのげマス釣りセンター」などでは、キャンプやバーベキュー、溪流釣り、森の中での音楽イベントなど、豊かな自然を生かしたアウトドア体験などを楽しむことができます。また、令和5年（2023年）1月には、イチゴ狩りなどが楽しめる「蓑毛ベリー園」もオープンしており、体験の幅が広がっています。田原ふるさと公園などのエリア周辺や市街地等の施設、近隣市町村との連携などにより、回遊性の向上や滞在時間の延長を図り、地域の活性化につなげることが期待されます。

(4) 歴史文化資源の存在

ア 文化財

大山の登山口にあり山岳信仰の拠点としての歴史がある蓑毛周辺には、国の登録有形文化財である「蓑毛大日堂（他 3 棟）」や、県指定重要文化財である「木造大日如来坐像」と市指定重要文化財である 4 体の如来から構成される「木造五智如来坐像」の他、市指定重要文化財である「木造聖観音菩薩立像」、「木造二王立像」、「木造十王像」など、多くの文化財が存在します。

また、国登録有形文化財である「旧芦川家住宅主屋（緑水庵）」は、昭和 5 年（1930 年）に今泉に建築された葉たばこ農家の典型的住宅を移築したもので、竹の産地であった秦野らしく割竹を張った壁が特徴です。自然観察の森の展示・学習施設として市民に親しまれ、蓑毛地区の山村風景とよく調和しています。



蓑毛大日堂



緑水庵

イ 大山詣りと御師^{おし}※12の里

蓑毛から大山へ向かっていく道は、蓑毛道と呼ばれ、蓑毛大日堂に遺された仏像から、その歴史は平安時代に遡ると考えられます。江戸時代には、庶民の間で大山信仰と娯楽を兼ねた大山詣りの人々で賑わいました。また、その麓のまちである蓑毛は、大山に参詣する人々を案内し、宿泊させる御師^{おし}の集落として発展してきました。現在でも当時の道標や鳥居等が残っており、当時の様子を偲ばせるものとなっています。



小蓑毛の鳥居

※12 御師：神社に属し、参詣者の案内や宿泊を業とした者。大山中心に信仰を布教し、民家は宿も兼ねていた。

2 ヤビツ峠・蓑毛周辺を取り巻く環境と課題

(1) 社会潮流

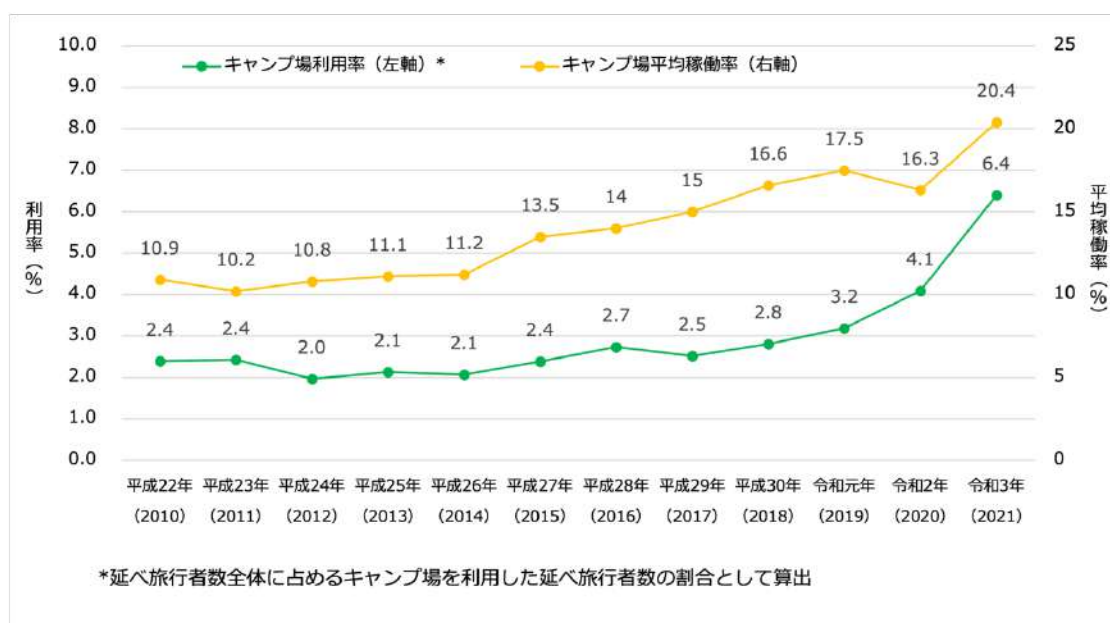
ア 新型コロナウイルス感染症の影響

令和2年（2020年）以降に本格化した新型コロナウイルス感染症の流行により、不要不急の移動の自粛や3密（密閉、密集、密接）環境の回避が求められ、日常生活や経済活動を大きく制限することになりました。しかし、令和4年（2022年）以降はこれらの制限が段階的に緩和され、徐々に以前の状態に戻りつつあります。

一方で、感染対策と日常生活や経済活動を両立させるものとして、業務面では対面を回避できるテレワークやワーケーション^{※13}の増加、また、生活面ではキャンプなどの屋外レジャーやアクティビティ、都会と地方を行き来しながら暮らす二拠点居住、自宅から1時間から2時間の近距離の範囲を旅行するマイクロツーリズムなどが注目され、現在も社会に一定の定着がみられます。

本エリアは、表丹沢の自然環境が代表的資源となっており、キャンプ場などの施設が整備されていることに加え、東京や横浜などの都心からのアクセスも良好であるため、屋外での活動を基本とするなど感染リスクを低下させる形で、他地域を訪問するという社会のニーズに合致する地域特性があると考えられます。

■キャンプ場利用率とキャンプ場平均稼働率の推移



出典：観光庁令和4年（2022年）「旅行・観光消費動向調査」及び日本オートキャンプ協会「オートキャンプ白書2022」より作成

※13 ワーケーション：work（仕事）とvacation（休暇）を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、リゾート地や温泉地、国立公園等、普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと。休暇主体と仕事主体の2つのパターンがある。

また、ワーケーションは休暇を中心とする休暇型と業務を中心とする業務型に分類されますが、特に仕事をメインとする業務型ワーケーション^{※14}については、経団連が企業向けに導入ガイド（企業向けワーケーション導入ガイドー場所にとられない働き方の最大活用ー）を作成するなど、注目を集めています。都市部からのアクセスに優れる本エリアにとって、今後ワーケーションの前提となるテレワーク環境の整備や業務型ワーケーションに適した研修プログラム等を造成することで、その利用増加が期待されます。

イ コト消費・トキ消費の市場拡大

平成29年（2017年）版消費者白書は、近年において購入したモノやサービスを使ってどのような経験・体験をするかという「コト消費」に、消費者の関心が置かれるようになってきていることを指摘しています。その背景の一つとして、情報化の進展によりデジタル化されたコンテンツが、複製によって容易に入手可能になったことによるモノを所有することの意義の低下、デジタル化されていない情報やコンテンツの価値の相対的な高まりがあります。

また、令和4年（2022年）版では、その時、その場所でしか体験できない「トキ消費」への注目の高まりが指摘されており、体験を通じて、感動を他の参加者と共有することや、自らも参加者として盛り上がりにより一体感を得ることが、消費者に求められると考えられます。

このような関心を持つ消費者に対して、本エリアの自然環境や歴史文化資源などを生かした体験を提供することが求められます。

ウ ウェルビーイング・ヘルスツーリズムの需要の高まり

近年、持続的な幸せを求めるウェルビーイングへの志向が高まっています。ウェルビーイングは、昭和22年（1947年）にWHO憲章において「身体的、精神的、社会的に良好な状態」を示す概念として用いられたもので、現在では、一時的ではない持続的な幸せを示す概念として理解されています。

こうしたウェルビーイングへの志向は、観光分野でも注目されています。観光庁は、「自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持するもの」といったウェルネス^{※15}を求める旅行形態をヘルスツーリズムと定義し、推進しています。

本エリアでも、自然や歴史文化等の地域資源を生かした多様な体験を通じて、人々のウェルビーイングを実現することが期待されます。

※14 業務型ワーケーション：地域関係者との交流を通じて、地域課題の解決策を共に考える「課題解決型」、場所を変え、職場のメンバーと議論を交わす「合宿型」、サテライトオフィスやシェアオフィスで勤務する「サテライトオフィス型」の3タイプに細分化される。

※15 ウェルネス：世界保健機関（WHO）が国際的に提示した、「健康」の定義をより踏み込んで、広範囲な視点から見た健康観を意味する、より良く生きようとする生活態度のこと。輝くように生き生きしている状態。

エ 環境再生（リジェネラティブ）に対する意識の高まり

近年、環境への負荷を軽減し、維持を目指すサステナビリティの考えが広がっています。企業の評価においても、E S G（環境・社会・企業統治）の観点で配慮ができているかが重要であると考えられており、サステナビリティの考えに基づいて事業に取り組む企業が増えています。

また、より踏み込んだ考えとして、環境を取り巻く根本的な課題を解消しながら、環境の再生や改善を目指すリジェネラティブの考えが、国内外で注目されており、旅による環境や地域への影響を考慮し、より環境に良い旅を選択する旅行者も増えています。

これまでの丹沢大山国定公園や里地里山、歴史文化資源の保全・再生の取組みを発展させながら、環境をより良くする滞在のスタイルに対応することが求められます。

オ 新東名高速道路の全線開通

海老名市の海老名南ジャンクションから愛知県豊田市の豊田東ジャンクション間をつなぐ新東名高速道路は、令和4年（2022年）4月に秦野区間が開通し、市内には、秦野丹沢スマートICと新秦野ICの2つのインターチェンジが設置されました。

また、令和9年度（2027年度）には、新東名高速道路の全線開通が予定されており、首都圏に加え、圏央道の利用による北関東方面はもとより、中部、関西方面などからの交通利便性が飛躍的に向上することから、産業振興や観光振興等の地域活性化が期待されます。



秦野区間が開通した新東名高速道路

カ 国立・国定公園の魅力向上に向けた国の動向

本エリアは、大部分が丹沢大山国定公園に指定されており、これまでも自然の保護を大切にしながら、多くの来訪者の観光・休養となるような利用が進められてきました。また、新型コロナウイルス感染症の流行以降、自然や健康への関心の高まりにより、国立・国定公園の価値が改めて見直されています。国においては、国立・国定公園の自然の価値を生かし、地域活性化に資する滞在型の自然観光を推進することを目的に、自然公園法の一部を改正する法律が令和3年（2021年）5月に公布されました。

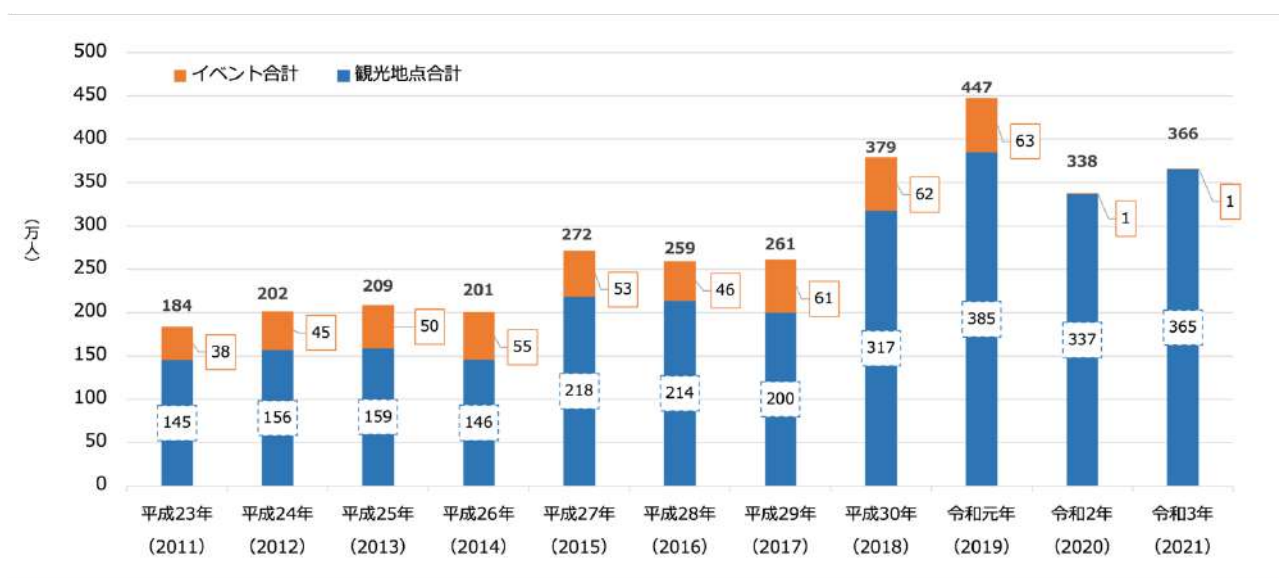
今回の改正では、自然体験活動促進計画制度及び利用拠点整備改善計画制度が新設され、市町村やガイド事業者等による協議会が計画を作成し、環境大臣・都道府県知事の認定を受けた場合、特例により手続きが簡素化されます。これにより、魅力的な自然体験アクティビティの開発や提供、ルール化等の促進や滞在環境の整備につながり、国立・国定公園の「保護と利用の好循環（自然を保護しつつ活用することで地域の資源としての価値を向上）」を実現し、地域の活性化にも貢献していくことが期待されています。

(2) 本市の観光動向

ア 観光入込客数の推移

本市の観光入込客数は、平成23年（2011年）時点では約184万人となっていました。平成30年（2018年）以降は、「ゴルフ場」、「商業施設」、「温浴施設等」も集計対象に追加されたことから急増し、令和元年（2019年）にはピークとなる約447万人まで増加しました。令和2年（2020年）は新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延を受けて減少していますが、令和3年（2021年）には約366万人まで回復しています。令和2年（2020年）以降は、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントの中止が相次ぎ、イベント合計の値が大幅に減少しました。

■**秦野市における観光入込客数の推移**（1万人未満四捨五入のため、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。）



イ 観光消費額の推移

本市の観光消費額は、平成23年（2011年）に約8.4億円となっていました。平成30年（2018年）以降は、「ゴルフ場」、「商業施設」、「温浴施設等」も集計対象に追加されたことから急増し、ピークを迎えた令和元年（2019年）には約59.2億円となりました。直近の令和3年（2021年）は約52.1億円となっています。

一人当たり消費額も観光消費額とほぼ同様の傾向がみられ、平成23年（2011年）時点では455円でしたが、平成30年（2018年）以降に同様の理由で急増し、令和3年（2021年）には過去11年間で最高となる1,422円となっています。

■秦野市における観光消費額の推移（観光消費額は千万円未満四捨五入）



ウ 都市部からのニーズ

本市が都市部からのニーズを図ることを目的に、東京と神奈川在住者における本市の来訪経験層と来訪潜在層を対象に行ったアンケート調査によれば、来訪経験層のうち、東京在住者は約80%、神奈川在住者は約75%が本市に「ぜひ行きたい」、「まあ行きたい」と回答するなど一定程度の再訪意欲がうかがえます。来訪潜在層については、東京23区、東京23区外、神奈川県の実験者それぞれの約65%程度が、「ぜひ行きたい」、「まあ行きたい」と回答しています。

来訪経験層と来訪潜在層の興味のあるアクティビティをみると、いずれも「ウォーキング」や「寺社仏閣巡り」、「緑道の散歩、ランニング」、「町の歴史・文化訪問」、「森林浴、森林セラピー」などが上位となっています。また、「登山、ハイキング、トレッキング」については、特に来訪経験層の回答が多くなっています。

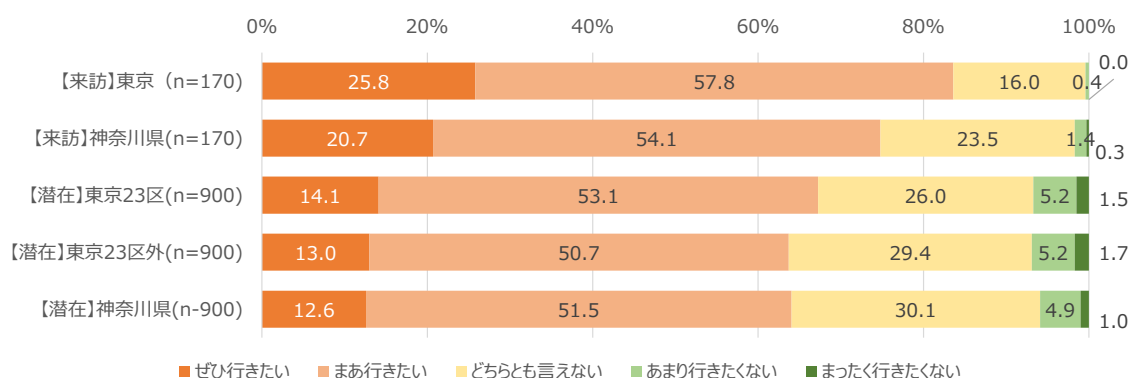
アウトドアや自然体験等のお出かけで重視することについては、来訪経験層と来訪潜在層のいずれも、「リフレッシュできる」、「ゆっくりと過ごすことができる」、「地域の食（グルメ）を楽しむ」などの保養・休養を重視した選択肢や、「トイレや水洗い場がきれいである」といった快適な滞在環境に関わる選択肢の回答が多くなっています。

本エリアの地域資源を生かして、都市部のニーズに合う体験やサービスを提供することや、快適な滞在環境を整備することで、本エリアへの来訪を促し、来訪者の満足度の向上に寄与できると考えられます。

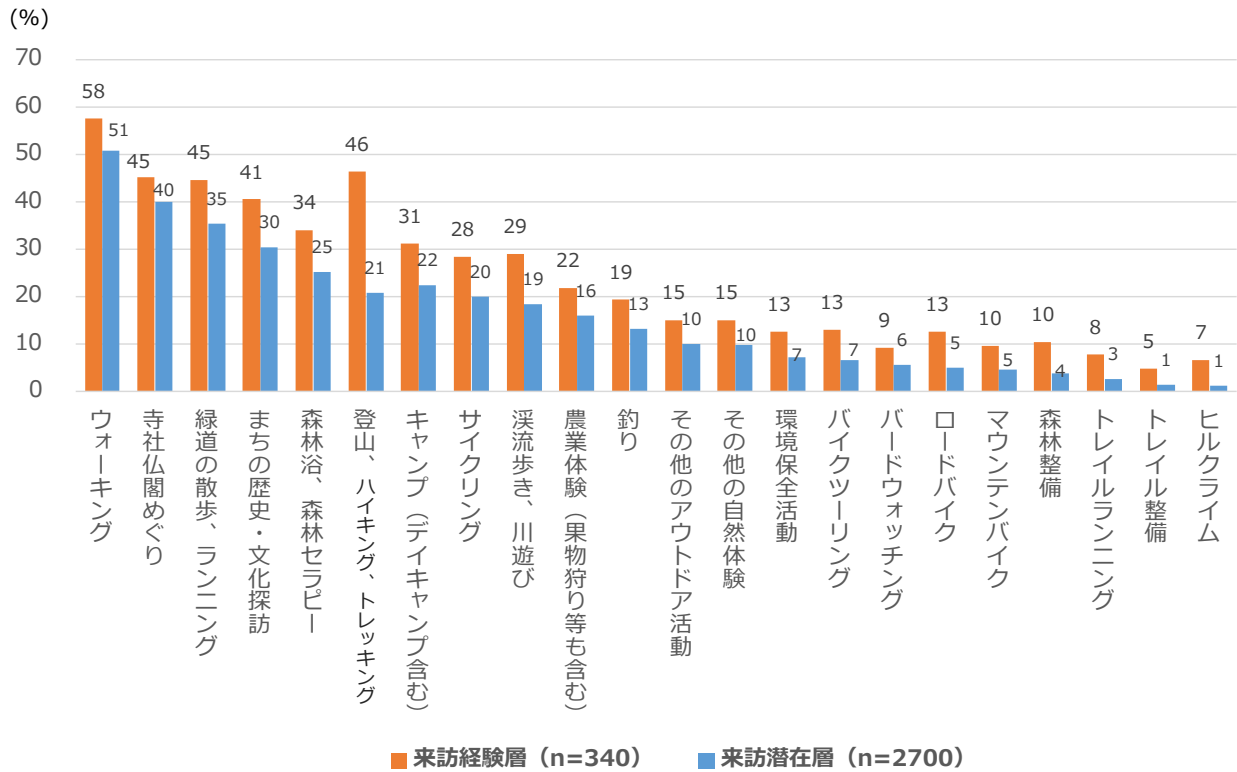
■調査の実施方法

① 調査方法	調査パネルに対するインターネット調査
② 調査対象	東京都、神奈川県在住の20歳から69歳までの男女（個人）
③ 抽出方法	調査機関登録モニターより確率抽出
④ 対象者数	（来訪経験層）340名（来訪潜在層（非来訪））2,700名
⑤ 調査期間	令和4年（2022年）9月22日から同月28日まで
⑥ 調査機関	株式会社インテージリサーチ

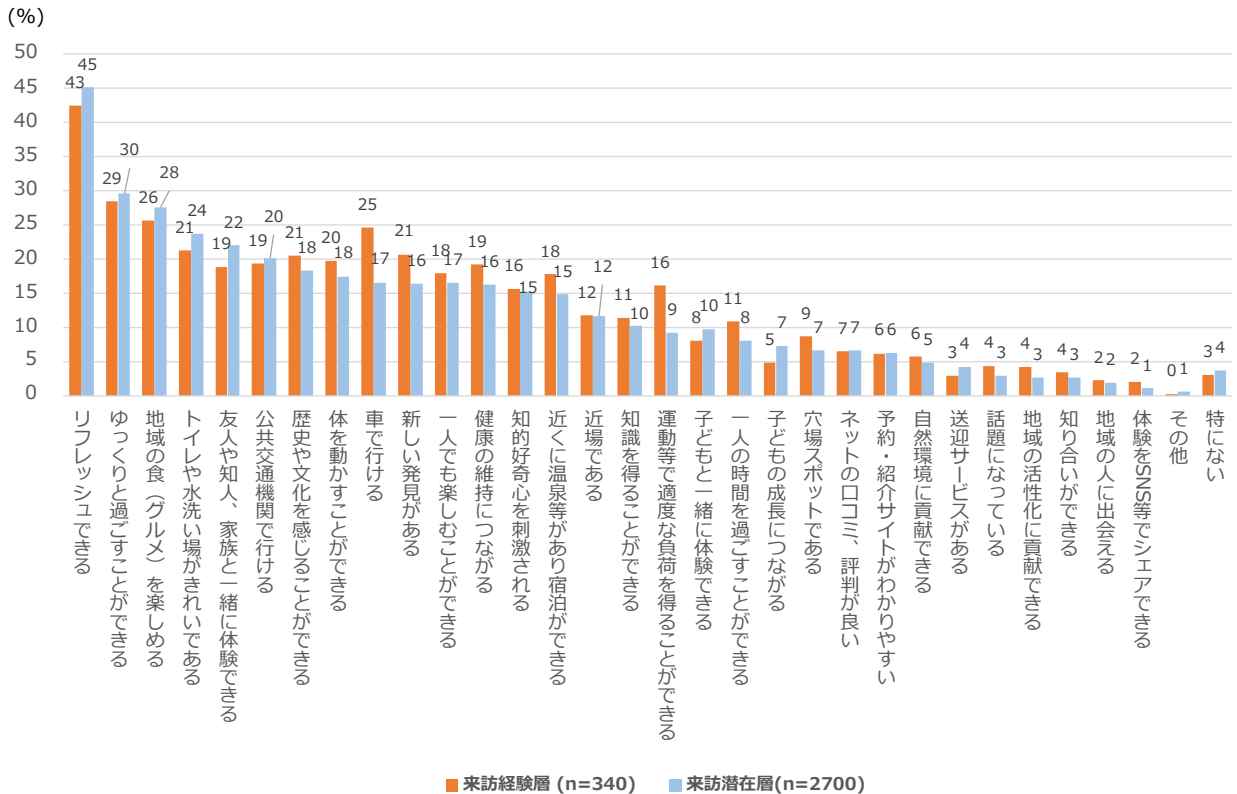
■秦野市への来訪経験層及び来訪潜在層の秦野市への来訪意向



■秦野市への来訪経験層及び来訪潜在層の興味関心（関心のあるアクティビティ）



■秦野市への来訪経験層及び来訪潜在層の興味関心（アウトドアや自然体験等のお出かけで重視すること）



(3) ヤビツ峠・蓑毛周辺の課題

ア ヤビツ峠・蓑毛らしい体験コンテンツや特産品の磨き上げ

本エリアでは、登山やサイクリング、トレイルランニングなど、表丹沢の豊かな自然を活用したアクティビティを体験できますが、通過型のものが多いため、ヤビツ峠・蓑毛周辺の滞在を増やしてもらう新たなアクティビティや仕組みが必要です。

また、豊かな森林が育む秦野名水、葉たばこの輪作として盛んに栽培された落花生など、質の高い観光資源があります。しかし、現状ではそれらの質の高さが必ずしもヤビツ峠・蓑毛らしさを表す商品として有効活用できていません。

今後、ヤビツ峠や蓑毛という地名に強固に結びつく商品を新たに開発することや、既存のアクティビティや特産品にストーリーを付与するなどの活用方策を通じて、ヤビツ峠・蓑毛ならではの体験コンテンツや商品の開発を検討する必要があります。

イ 新たな体験拠点、既存拠点の整備・充実

本エリアには、様々な体験コンテンツの情報を集約的に提供する拠点や、来訪者の滞留場所や立ち寄り場所、宿泊施設など、体験コンテンツを生かすための滞在拠点が不足しており、エリア内の他地点への訪問につながらない等の課題があります。体験コンテンツへの参加を促すためにも、拠点施設の整備や充実が必要です。

また、トイレの老朽化などの課題もあり、快適な環境の実現が求められています。

さらに、空き家や耕作放棄地が増加しており、遊休資産の活用が課題となっているほか、里山林の荒廃を背景に発生している農地等での鳥獣被害防止のため、防除対策や鳥獣の棲み場となる藪や竹林を解消する活動も求められています。

ウ 交通環境の改善、回遊性の向上

秦野駅からヤビツ峠までは路線バスが主要な二次交通^{※16}の手段となっており、需要のピーク時には臨時便を増発するなどの対応をしていますが、個別の移動需要には応えられないのが現状です。また、復路においては、下山時刻が個々に異なってくることから、その傾向は顕著となっています。そのため、秦野駅とは別エリアに移動するという行動が常態化しており、エリア内の回遊性の低下と消費額の減少が危惧されます。

自家用車でのアクセスは、ヤビツ峠の駐車可能台数が少ないことに加え、早朝に登山者の利用で埋まることが多く、登山目的以外の利用者の訪問を難しくしています。

また、県道70号は道幅が狭く、近年では、多くのサイクリストやトレイルランナーに利用されていることに加え、道路脇の草木のせり出しなどにより、通行の安全に課題がある状況です。

※16 二次交通：拠点となる空港や鉄道駅から、観光等の目的地まで行くための交通手段のことを指す。

魅力向上を図るに当たり、上記のような二次交通の改善に伴う回遊性の向上や、安全安心で快適な道路環境の充実を図っていくことが重要です。

エ 担い手や後継者の育成、団体間の連携不足

本エリアでは、従来から自然や歴史文化等に関する様々な団体が活発に活動を行っており、それらの主体が来訪者に提供する体験やアクティビティは、当地の魅力の一つです。一方で、個々の団体は単独で活動することが多く、必ずしも団体間の連携や協力が効果的に行われていない状況です。今後は、各団体で横断的に協力する体制や仕組みを構築し、密に情報交換することで、時宜に応じた取組みや個々に提供するコンテンツの磨き上げ等につなげていくことが望まれます。

また、少子高齢化や若者世代の都市部への転出傾向等を背景に、本エリアで活動する団体のメンバーの高齢化が進んでおり、後継者の確保・育成が急務となっています。しかし、若い担い手の不足や募集手段に課題があり、今後は人材確保と育成に向けた方策を情報発信の方法も含めて検討する必要があります。

オ 情報の充実と発信強化

地域の住民や事業者であっても必ずしも地域の観光情報を把握していない状況が見受けられることから、情報をどのように把握・整理し、発信していくかを検討していく必要があります。また、近隣市町村や周辺に関連施設などとの連携を図り、広域的な情報発信に取り組むことも重要です。さらに、来訪者のニーズを満たす観光商品の開発と合わせた戦略的な情報発信を検討していく必要があります。

また、一部のマナーの悪い来訪者の行動は、地域住民や来訪者、エリアの環境や安全を脅かしかねません。そのため、貴重な自然を守り、地域住民と来訪者が良好な関係を築いていくためのマナーや安全登山の心得などについて、効果的な情報発信を継続して実施することが重要です。

第3章 ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画

1 ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿

本計画は、第1章で示した「計画の位置付け」のとおり、公的主体である行政と民間主体である市民や活動団体、民間事業者等の幅広い関係者が地域の課題やその解決に向けた施策の方向性など、共通のビジョンを共有しながら、公民連携による地域づくりを進めることを目指しています。

そこで、本計画の策定に当たり、行政、地域住民、地域関係事業者参加型のワークショップを行いました。このワークショップでは、本エリアの資源や人材を活用することで、来訪者や地域に提供できる価値や体験、そして将来の本エリアの理想の姿に関する意見やアイデアを出し合いました。

●ワークショップ実施概要

第1回「物語を作ろう」

日 時：令和4年10月24日（月）9時～12時

場 所：秦野市役所講堂

参加者：20名

内 容：ヤビツ峠・蓑毛周辺エリアに訪れ、地域の資源や人材と触れることで主人公も地域も幸せになる物語を考える

第2回「具体的な滞在プランを考えよう」

日 時：令和4年11月17日（木）9時～12時

会 場：秦野市役所議会第1会議室

参加者：20名

内 容：第1回で作成した物語のテーマやキーワードを踏まえて、具体的な滞在プランを考える

第3回「ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿を考えよう」

日 時：令和4年12月22日（木）9時～12時

会 場：秦野市役所教育庁舎大会議室

参加者：18名

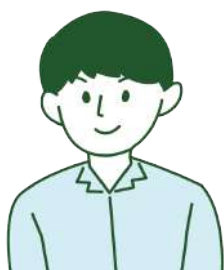
内 容：自分たちにとって、ヤビツ峠・蓑毛周辺が将来どのような地域になっていることが理想の姿かを考える

(1) ヤビツ峠・蓑毛周辺が提供できる価値・体験

第1回・第2回のワークショップでは、4つの班に分かれて物語と滞在プランづくりを行い、本エリアではどのような人々にどのような価値・体験を提供できる、もしくは今後提供していきたいか、意見とアイデアを出し合いました。



主人公①とニーズ	都内在住の女性／癒しを求めて友人と女子旅
物語で体験すること	座禅・瞑想／ヨガ／森林セラピー／岳ノ台からの眺望／カフェ／BBQ／地場野菜を活用した料理体験／温泉／焚き火
活用する地域資源	自然／名水／ヤビツ峠レストハウス／青山荘／BOSCO／緑水庵／表丹沢野外活動センター／宝蓮寺・大日堂／岳ノ台
必要なコト・モノ	周遊できる交通手段の整備／土産品の開発
提供する価値	心身の癒し／自分を見つめ直す時間／地域との交流



主人公②とニーズ	20代男性／仲間づくりや異業種交流、仲間との関係づくり
物語で体験すること	手ぶらでキャンプ／サイクリング (E-bike)／BBQ／キャンプファイヤー／焚き火／写真撮影／夜の暗闇体験／菩提峠や菜の花台からの眺望／ハイキング
活用する地域資源	地場食材／青山荘／自然／名水／菩提峠／菜の花台／ヤビツ峠レストハウス
必要なコト・モノ	レンタサイクル／サイクルトレイン ^{※17} ／着替えスペース
提供する価値	仲間との体験・時間の共有／自分を見つめ直す時間／異業種交流／地域との交流／リフレッシュ

※17 サイクルトレイン：自転車を鉄道車両内に、解体せずに持ち込むことができるサービスのこと。



主人公③とニーズ	女子学生／地域での学び、生きる力の獲得
物語で体験すること	歴史学習／薪割り／ヨガ／食材を自分で採って料理して食べる体験／BBQ／民泊／キャンプ
活用する地域資源	宝蓮寺・大日堂／空き家／耕作放棄地／放置竹林／ヤビツ峠レストハウス
必要なコト・モノ	地域マップの作成／宿泊施設の整備
提供する価値	地域との交流や共創／地域課題の解決／若い世代の学習や挑戦の場／生きる力の獲得



主人公④とニーズ	都内在住・勤務の父／親も子供も楽しめる体験
物語で体験すること	髭僧の滝までのハイキング／春岳沢登り／森林セラピー／果物狩り／地場食材の料理／星空観察／朝日を見る／座禅／精進料理／大日堂見学／蕎麦打ち体験／農業体験
活用する地域資源	宝蓮寺・大日堂／髭僧の滝／春岳湧水／緑水庵／自然／菜の花台／ヤビツ峠レストハウス
必要なコト・モノ	地域人材の発掘／宿泊施設の整備
提供する価値	親子の関係づくり／リフレッシュ／どの世代も楽しめる体験

第1回・第2回ワークショップのまとめ

計2回のワークショップの結果から、本エリアは、豊かな自然や歴史文化資源を生かして、誰でも気軽に楽しめる体験から、本格的なアウトドアアクティビティまで様々な体験を提供できる場所であり、多様なターゲットのニーズに応えることが期待されています。これらの体験が提供する価値には、癒しや自分を見つめ直すというような「精神」的健康と、サイクリングや登山等の運動をする「身体」的健康、そして、地域や仲間等との交流や共創を通じて社会とつながりを感じる「社会」的健康があり、本エリアは、地域資源を生かした「**ウェルビーイングを実現できる場所**」としての魅力の向上を図ることが望まれていると考えられます。

また、耕作放棄地や放置竹林、空き家等は地域の課題であると考えられている一方で、体験コンテンツや特産品の開発に活用できる資源として期待されています。

(2) ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿

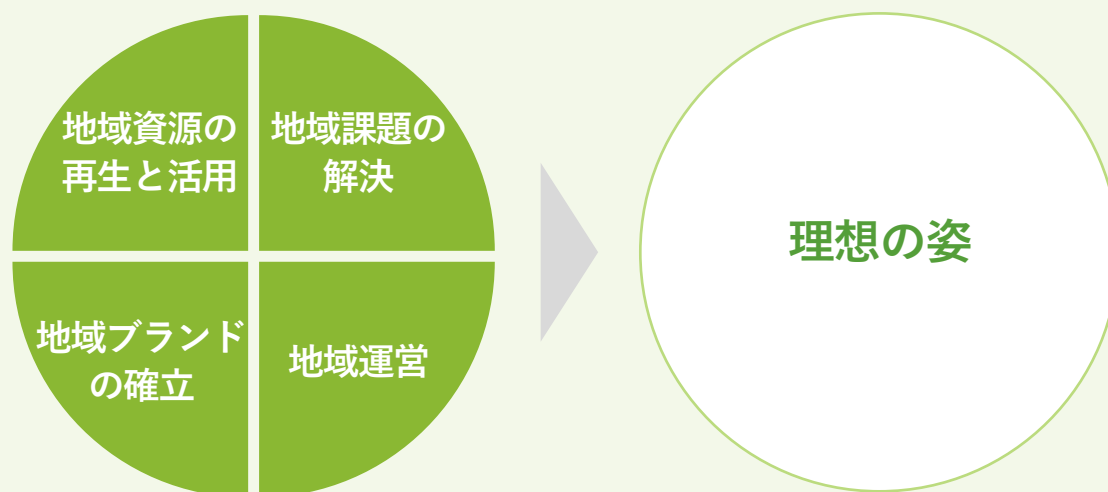
第3回のワークショップでは、将来どのような地域になっていることが理想の姿であるかを考えました。ワークショップで出た意見を大別すると、以下の4つに区分されます。

地域資源の再生と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本エリアの自然や歴史文化を守り、次世代に残していく ・ 環境整備や清掃を行い、日本一きれいな峠を目指す ・ 来訪者も自然を守り、ゴミを持ち帰る ・ 昔のくらしと文化が維持されている ・ 自然に関する関係人口や来訪者、移住者が増えること ・ 自然に関する仕事や消費が増え、インフラも整備されていること ・ 桜並木の復活 ・ 秦野の資源に適切に付加価値を与える
地域課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収益性があり、体制の維持や地域に還元できるサービスの金額設定 ・ 地域の困りごとを、体験を通じて解決できる ・ 環境整備・活用（緑水庵／トイレ／放置竹林／耕作放棄地／空き家／宿泊施設、駐車場等） ・ 交通安全（道路環境整備／交通手段の整備／看板設置等） ・ 情報発信
地域運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホスピタリティ^{※18}のある地域 ・ 地域の関係事業者やガイド等のプレイヤーが一体化してサービスを提供する ・ 地域住民との相互理解を深め、協力し合える関係を構築すること ・ 住民、活動団体、民間事業者、行政が統一したコンセプトを持つ
地域ブランドの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験・滞在の付加価値向上 ・ 地域住民も来訪者も楽しめるイベントの開催 ・ 愛着を持てる、憧れの場所 ・ 日常を忘れられる非日常感 ・ ヤビツ峠・蓑毛周辺の魅力を理解し、その魅力を大切にする来訪者の獲得と再訪率の向上 ・ 地域住民と来訪者の接点があり、活気に溢れている ・ 来訪者同士がつながる場 ・ 温もり、懐かしさを感じる場所 ・ 心身を癒す、活力をチャージできる場所

※18 ホスピタリティ：深いおもいやり、やさしさ、おもてなしのこと。狭い意味では、主に接客や接遇の場面でされるものを指すが、広い意味では、人と人だけにとどまらず、自然や社会などの関わりも含まれる。

第3回ワークショップのまとめ

第3回ワークショップの結果から、「地域資源の再生と活用」、「地域課題の解決」、「地域運営」、「地域ブランドの確立」の4つが実現されることが、本エリアの理想の姿であると期待されています。本エリアを代表する地域資源の自然や歴史文化を、より良い状態へ保全・再生しながら体験コンテンツや特産品の開発に活用していくことは、地域課題の解決や地域ブランドの向上につながります。これにより、地域住民の快適な暮らしを実現し、取組みに対する理解・協力を促すことで、地域が一体となってホスピタリティのあるサービスを提供する運営体制が整えられ、地域全体で地域ブランドを確立できると考えられます。そこで、理想の姿の実現に向けては、これらの4つに包括的に取り組み、地域住民にとっても、来訪者にとっても、本エリアが魅力を感じ、愛着を持てる場所になることを目指すことが必要と考えられます。



2 ヤビツ峠・蓑毛周辺のポテンシャル

第2章では、「ヤビツ峠・蓑毛周辺の特徴」及び「ヤビツ峠・蓑毛周辺を取り巻く環境と課題」を整理し、本エリアの現状を明らかにしました。また、本章1の「ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿」では、ワークショップを通じて、地域の主体者が考える本エリアで提供できる価値・体験や理想の姿が見えてきました。これらを踏まえて、本エリアのポテンシャルについて、強み（Strength）、弱み（Weakness）、機会（Opportunity）、脅威（Threat）の分析軸によって整理します。また、ポテンシャルに対して、想定されるターゲットについても検討します。

■ヤビツ峠・蓑毛周辺のSWOT分析^{※19}

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	<p>強み (Strength)</p> <ul style="list-style-type: none"> 都心から電車、自家用車で訪れやすい立地 丹沢大山国定公園や里地里山の豊かな自然環境と優れた眺望 丹沢における自然再生の取組み 淡墨桜やミツマタ、秦野名水等の地域資源 登山やヒルクライム、森林セラピー等多様なアクティビティを楽しめる 大山信仰に関わる歴史や国登録有形文化財等の歴史文化資源の存在 コンパクトなエリアの中に、自然や歴史文化等の多様な地域資源が存在 	<p>弱み (Weakness)</p> <ul style="list-style-type: none"> ヤビツ峠・蓑毛らしい体験コンテンツや特産品の不足 体験コンテンツを生かすための滞在拠点の不足 空き家や耕作放棄地の増加 農地等の鳥獣被害の増加 エリア内の交通利便性、回遊性が低い 地域の活動団体間の連携不足 人材の高齢化、担い手不足 地域内外の人々が魅力を感じる情報発信の不足
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> コト消費・トキ消費の市場拡大 ウェルビーイング・ヘルスツーリズムの需要の高まり 世界的な環境再生に対する意識の高まりや取組みの広がり 新東名高速道路の全線開通 都市部在住者のアウトドアや自然体験に対する興味関心の高まり 新型コロナウイルス感染症の影響による働き方の多様化（テレワークや二拠点居住、業務型ワーケーションの普及） 令和3年（2021年）自然公園法の改正（P19カ参照） 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流人口・関係人口や外貨の獲得に向けた地域間競争の激化 全国的な人口減少に伴う国内市場の縮小 長引く低成長、燃料高・原料高による消費意識の後退

※19 SWOT分析：現状分析のために使われる手法の一つ。内部要因（強み・弱み）と外部要因（機会・脅威）を掛け合わせて分析することで、方向性や改善策を洗い出し、新たな戦略を導き出すもの。

(1) 強みと機会を生かし、魅力を高めるための積極化戦略【S（強み）×O（機会）】

社会潮流と消費者ニーズを踏まえたアクティビティの質の向上

- ・ 本エリアでは、豊かな自然環境や眺望、歴史文化資源を生かした多様なアクティビティを提供することができます。その体験を通じて**ウェルビーイングを実現できる場所としてアクティビティの質を磨き上げ、SNS等を活用してその魅力を発信することで、さらなる誘客を図ることができる**と考えられます。

想定されるターゲット：ウェルビーイングに興味関心がある個人、「1ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿」で示した物語の主人公①・④等

関連する強み：豊かな自然環境、歴史文化資源、多様なアクティビティ、桜や秦野名水等の地域資源

関連する機会：コト消費・トキ消費の市場拡大、アウトドアや自然体験に対する興味関心、ウェルビーイングやヘルスツーリズムの需要の高まり、法改正による国定公園の魅力向上

(2) 強みを生かして、外的脅威を避けるための差別化戦略【S（強み）×T（脅威）】

他地域と差別化したターゲティングによる交流人口の拡大

- ・ 全国的な人口減少に伴い国内市場は縮小しているものの、首都圏の人口は高い水準で維持されています。そのため、本エリアでは、都心から訪れやすい立地を生かして、都市部在住の個人だけではなく、**都市部の企業や団体もターゲットに見据えたコンテンツを造成**することで、観光消費額の増加につながります。
- ・ 近隣地域との競争が激化する中で、世界的な環境への意識の高まりに対して、本エリアの**自然、歴史文化等の地域資源の保全・再生を図りながら、環境に配慮した体験コンテンツやイベントの造成、拠点整備等**を行うことで、これら地域資源への理解の醸成や地域の魅力向上につながります。特に、**コンパクトなエリアに自然や歴史文化が集まっている地域特性を生かして、これらを融合させたヤビツ峠・蓑毛らしい体験コンテンツを造成**することが有効であると考えられます。

想定されるターゲット：都市部の企業・団体、「1ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿」で示した物語の主人公②等

関連する強み：都心から訪れやすい立地、豊かな自然環境、歴史文化資源、コンパクトなエリア

関連する脅威：地域間競争の激化、国内市場の縮小、消費意識の後退

(3) 機会を生かして、弱みを改善・克服するための改善戦略【O（機会）×W（弱み）】
地域に興味・関心のある人や企業を呼び込む仕組みづくりと回遊性の向上

- ・ 働き方の多様化によりテレワークや二拠点居住等で地域への関心が高まっている中、**個人・企業等が、積極的かつ主体的に地域や地域住民と関わる**ことができる仕組みを構築することで、**第三者による新たな視点での魅力づくりや人材の確保**を図ることが有効であると考えられます。
- ・ **空き家や耕作放棄地を体験拠点に活用するなど、来訪者が滞在できる環境を整える**ことで、滞在時間の増加が見込めます。
- ・ **二次交通の導入や道路環境の充実により、来訪者の周遊観光を可能にする**ことで、観光消費額が増加すると考えられます。

想定されるターゲット：地域での取組みや副業に興味関心がある企業や個人、「1ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿」で示した物語の主人公③等

関連する機会：環境への意識の高まり、働き方の多様化

関連する弱み：ヤビツ峠・蓑毛らしさがない、人材の高齢化・担い手不足、空き家や耕作放棄地の増加、滞在拠点の不足、エリア内の交通利便性

(4) 弱みと脅威による損失を回避するための回避戦略【W（弱み）×T（脅威）】
一貫したコンセプトに基づいた地域内連携と情報発信

- ・ 地域間競争が激化する中、本エリアのイメージが明確となるコンセプトを掲げ、その**コンセプトに基づいて体験コンテンツの造成や特産品の開発等を行い、SNSやPR動画等を活用した戦略的な情報発信を行う**ことで、**本エリアの認知度向上**につながります。加えて、**地域が一体となった推進体制を構築し、人材の育成も行う**ことで、**地域内の連携が強化**され、地域全体でコンセプトを実現していくことができると考えられます。

関連する弱み：ヤビツ峠・蓑毛らしさがない、情報発信不足、活動団体間の連携不足

関連する脅威：地域間競争の激化

以上のSWOT分析に基づき、施策の方向性について次のとおり整理します。

- ・ ウェルビーイングを実現できる場所としてアクティビティの質の磨き上げ
- ・ 都市部の企業や団体をターゲットに見据えたコンテンツの造成
- ・ 環境に配慮した体験コンテンツやイベントの造成
- ・ 企業・個人が地域や地域住民と関わる**ことができる仕組みづくり**
- ・ 空き家や耕作放棄地等の活用
- ・ 滞在拠点の整備・充実
- ・ 二次交通の導入
- ・ 道路環境の充実
- ・ コンセプトに基づく体験コンテンツの造成や特産品の開発
- ・ SNSやPR動画等を活用した**戦略的な情報発信**
- ・ 地域が**一体となった推進体制の構築**
- ・ 人材の確保・育成

3 計画のコンセプト

SWOT分析から導き出した本エリアのポテンシャルを最大限に生かして魅力を向上していくために、次のとおり、本計画のコンセプトを定めます。

自然と歴史文化がいきづく 自分らしさに出会える場所

本エリアは、丹沢大山国定公園やそのすそ野に広がる里地里山の豊かな自然と大山信仰の拠点としての歴史を併せ持つ特別な環境の地域です。豊かな自然は登山やサイクリング、森林セラピー等の多様な体験を可能にし、江戸時代に特に流行した大山詣りでは、多くの参拝者を迎え入れ、独特の文化とホスピタリティの心を形成してきました。

これらの自然と歴史文化は、本エリアの大切な財産であり、地域関係者や行政などによる保全・再生や活用の取組みによって今日まで引き継がれてきました。これにより今もなお、都心近郊でありながら、非日常的な自然や歴史文化がいきづく環境は、本エリアの最大の強みと言えます。

今日の社会では、ライフスタイルや働き方の変化により、心身の不調や孤独への不安を感じる人が増えており、その増加は新型コロナウイルス感染症の拡大によりさらに加速しました。本エリアの自然や歴史文化は、心身の健康につながる体験に生かすことができます。また、大山信仰が形成したホスピタリティの心は、もてなす側が相手の気持ちを考えて丁寧に接するだけでなく、もてなされた人も感謝の気持ちを相手に伝えることで成立するものであり、地域と来訪者がつながり、お互いに喜びや幸せを共有できる心地良い時間を生み出します。

そして、ホスピタリティの心は人と人だけではなく、人と自然や人と社会などとの関わりの中でも具現化されるものでもあります。地球温暖化や集中豪雨等による災害、森林の荒廃による生態系の異変などの様々な環境問題が起きる中、自然や歴史文化といった本エリアが併せ持つ特別な環境を継承していくためには、今後より一層、地域の環境に対して思いやりの心を持ちながら、より良い状態に再生していく取組みを充実させる必要があります。

そこで、本エリアでは、自然や歴史文化の再生とそれにふさわしい活用を通じて、ホスピタリティとウェルビーイングの好循環を生み出し、人々の心身の健康や地域のにぎわいの創出等につなげ、地域住民と来訪者が自分らしさに出会える場所を目指します。

4 基本方針と施策体系

(1) 基本方針

コンセプトである「自然と歴史文化がいきづく自分らしさに出会える場所」の実現のため、SWOT分析から導き出した施策の方向性から5つの基本方針を定めます。また、本章1の「ヤビツ峠・蓑毛周辺の理想の姿」で示した、地域の主体者自身が考える本エリアの理想の姿との関係についても整理します。

施策の方向性	理想の姿				基本方針
	地域資源の再生と活用	地域課題の解決	地域運営	地域ブランドの確立	
ウェルビーイングを実現できる場所としてアクティビティの質を磨き上げ	○			○	基本方針1 地域資源を活用した新たなサービスの開発
都市部の企業や団体をターゲットに見据えた体験コンテンツの造成	○			○	
環境に配慮した体験コンテンツやイベントの造成	○	○		○	
コンセプトに基づく体験コンテンツの造成や特産品の開発	○			○	
滞在拠点の整備・充実	○	○			基本方針2 滞在環境の魅力の向上
空き家や耕作放棄地等の活用	○	○			
二次交通の導入		○			基本方針3 交通ネットワークの充実
道路環境の充実	○	○			
地域が一体となった推進体制の構築			○		基本方針4 人を起点とした魅力づくりの推進
人材の確保・育成			○		
企業や個人が地域・地域住民と関わることができる仕組みづくり		○	○		
SNSやPR動画等を活用した戦略的な情報発信				○	基本方針5 情報発信の充実

(2) 施策体系

5つの基本方針に基づき、次のとおり具体的な施策に取り組みます。

自然と歴史文化がいきづく 自分らしさに出会える場所

基本方針1 地域資源を活用した新たなサービスの開発

- 個別施策
- (1) 滞在型コンテンツの造成
 - (2) 林道を活用したイベントの充実
 - (3) 特産品や食コンテンツの開発

基本方針2 滞在環境の魅力の向上

- 個別施策
- (1) 滞在拠点の整備・充実
 - (2) トイレ環境の充実
 - (3) 眺望・景観の整備
 - (4) 遊休資産の活用と鳥獣被害対策

基本方針3 交通ネットワークの充実

- 個別施策
- (1) レンタサイクルの検討
 - (2) 周遊型交通サービス等の検討
 - (3) 道路環境の充実

基本方針4 人を起点とした魅力づくりの推進

- 個別施策
- (1) 包括的な推進体制の構築
 - (2) ガイド人材の育成講座の実施
 - (3) 地域住民や外部人材を巻き込む仕組みづくり

基本方針5 情報発信の充実

- 個別施策
- (1) 観光情報等の充実
 - (2) マナー等の情報発信の充実

5 個別施策

【施策の見方について】

(具体的な取組みの名称) ※施策に対して複数の取組みがある場合に記載				
取組内容	(これから取り組む具体的な内容)			
主 体 ※1	(施策の実施主体となる順番で記載)			
実施計画 ※2	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画
	○	◎	⇒	
数値目標	指標		現状値 ※3 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	(計画策定に向けて地域関係団体や関係事業者等に対して行ったヒアリングや第3章で示したワークショップから関連する主な意見を記載)			

【凡例】

※1 主体

- ・「秦野市」
- ・「関係自治体」
- ・「神奈川県」
- ・「民間事業者」：観光協会、森林組合、交通事業者、宿泊・飲食・旅行関連企業、その他民間企業など
- ・「市民・活動団体」：市民、地域活動団体など

※2 【実施計画】

- ・「◎」：取組みを重点的に実施する年度
- ・「○」：一部の取組みを実施または実施に向けて準備をする年度
- ・「⇒」：継続して事業を実施または事業の改善・見直しをする年度

※3 現状値 令和4年度(2022年度)の実績値が基本(取組みによって変動)

基本方針 1 地域資源を活用した新たなサービスの開発

地域の最大の魅力である自然環境や歴史文化資源を次世代につないでいくために、環境に配慮しながら、地域内外の人々がこれらの地域資源に触れ、学び、地域に愛着を持つことができる魅力あるコンテンツや特産品など、新たなサービスの開発に取り組みます。これにより、観光消費額や交流人口の増加につなげます。

施策 1 滞在型コンテンツの造成

取組内容	<p>登山やヒルクライム、トレイルランニングなどの既に親しまれているアクティビティに加え、特に、自然環境や歴史文化資源などの地域資源を生かし、個人や企業を対象に、環境や地域課題に配慮した新たな滞在型コンテンツを造成します。</p> <p>① 環境学習型コンテンツの造成 自然環境や歴史文化資源の保全・再生やその活用などの体験を通じて、参加者の成長を促す学習型のプログラムを造成します。プログラムに地域住民との交流や共に地域課題を解決する体験を盛り込むなど、地域への理解や愛着の醸成につなげます。</p> <p>② ウェルネス増進コンテンツの造成 森林セラピーロードや名水スポットなど、リフレッシュや癒し効果に優れた環境を生かし、ガイド付きで散策することや地場食材を活用した健康食と組み合わせるなど、森林セラピーやリトリート^{※20}等といったウェルネスをテーマとしたツアーを造成することで、癒しのエリアとしての認知向上とその確立を図ります。</p> <p>③ 地域課題解決型企业向けコンテンツの造成 主に企業を対象に、自然環境の保全・再生など、SDGsに関連した地域課題をテーマとし、学習・体験活動や課題解決型ワークショップを企画・開催することで、地域と企業が相互に新たな気付きを得ることができるフィールドを目指すとともに、両者の関係性の構築を図ります。</p>			
主 体	秦野市、市民・活動団体、民間事業者			
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画
	○	◎	⇒	秦野市観光振興基本計画

※20 リトリート：仕事や生活から離れた非日常的な場所で自分と向き合い、心と身体をリラックスさせるためにゆったりと時間を過ごす旅のスタイル。

数値目標	指標	現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
	新たな滞在型コンテンツの参加者数 (年間)	—	100
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放置竹林、空き家等、農家の困りごとの解決につながる新たな体験を造成し、地元の方と触れ合い続けられる環境があると良い。 ・ 加工品の原料を種で植えて、その加工品を作るために、継続的に秦野に来てもらえるような農業体験があると良い。 ・ 景色の良さ、森の中の気持ち良さの中で、リフレッシュできる体験が充実すると良い。 ・ 生き生きと心身がリラックスできる場所にしたい。 ・ 合宿で異業種交流をすることは、いろいろな刺激があり楽しいと思う。 ・ 豊かな自然を活用した体験を通じて、都心で働いている方の価値観に良い意味で影響を与えることで、地域への愛着につながるのではないかと。 		

施策2 林道を活用したイベントの充実

取組内容	<p>エリア内に複数存在する林道は自然環境や景観に富み、観光資源としてのポテンシャルに優れています。</p> <p>市営林道については、通行者の安全確保を前提とし、イベント等の開催の積み重ねによる有効活用方策を推進し、その他の林道については、関係機関との調整により活用の可能性に向けた検討を進めます。</p> <p>また、各林道管理者や民間事業者と連携を図りながら、イベント開催の仕組み・ルール作りについて検討します。</p>			
主 体	秦野市、神奈川県、民間事業者			
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画 秦野市森林整備計画 秦野市観光振興基本計画
	○	◎	⇒	
数値目標	指標		現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
	林道を活用したイベントの開催回数 (年間)		7	12
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林道は不法投棄問題などで閉鎖している場所もあるが、条件付きでスポーツのイベント等に対してもう少し柔軟な対応ができると、様々な可能性が生まれてくると思う。 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 菩提峠～表丹沢林道、菜の花台～羽根林道をうまく活用できれば、県道70号の混雑を回避し、交通の安全を考慮した自転車のイベントができるポテンシャルがある。 ・ 来訪者も地元の人楽しめるイベントがあると良い。
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策3 特産品や食コンテンツの開発

取組内容	本エリア内で従来から栽培されてきた農産物や本市を代表する資源の一つである秦野名水、さらには地域内の未利用資源などを活用した加工品や料理等、新たな特産品等の開発を目指します。			
主 体	民間事業者、市民・活動団体、秦野市			
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画
	○	◎	⇒	秦野市都市農業振興計画 秦野市観光振興基本計画
数値目標	指標		現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
	開発した特産品や食コンテンツの数		—	2
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落花生や名水、お茶を生かして、新たに売りにできる商品を作っていきたい。ただ商品を開発するだけでなく、伝え方や食べ方も含めて考えられたら良い。 ・ かつて秦野では菜の花が栽培され、そこから採取した菜種油と、豊富な水を利用して挽いた小麦を使用してカリントウが作られていた。そうした歴史を研究し、再現した「はだのかりんとう」は、現在、特産品となっている。このようなストーリーがある特産品がさらに出来ると良い。 ・ ジビエの活用が鳥獣被害対策につながるなど、地域の課題解決とイコールになると良い。 			

基本方針 2 滞在環境の魅力の向上

既存拠点や遊休資産を活用して、地域ににぎわいを生み出す体験や交流の拠点となる環境を整備します。また、修景に配慮した森林整備や、観光資源となる樹種の植樹を行うなど、より魅力的な眺望・景観を創出します。

施策 1 滞在拠点の整備・充実

エリア内には豊富な資源がある一方で、滞在の拠点となる場所や施設に乏しく、集客する際の弱みとなっていました。そこで緑水庵や菜の花台等といった拠点となりうるポテンシャルのある場所の整備や施設の拠点化を図るとともに、Wi-Fi等の整備を通じた利便性の向上を図ります。また、遊休資産を活用した魅力づくり等にも取り組みます。

① 緑水庵・蓑毛自然観察の森の整備・活用					
取組内容	<p>本市を代表する文化財の一つである緑水庵とその近隣に位置する蓑毛自然観察の森を一体的な滞在・交流拠点として活用していくため、駐車場と散策路、バリアフリーに対応したトイレの整備等を進めるほか、秦野市地球温暖化対策実行計画を進める中で、次世代自動車への転換促進に向けたEV（電気自動車）充電設備の設置について検討します。</p> <p>また、緑水庵を拠点とし、市民・活動団体等が主体となって、各種イベントを実施するほか、地域住民が気軽に利用できる居場所や登山やサイクリストなどの来訪者の休憩所としての活用、葉たばこ耕作農家の紹介などの展示館としての活用、コワーキングスペースなどの場としての活用を推進します。</p>				
主 体	秦野市、市民・活動団体				
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画	
	◎	⇒	⇒	緑水庵・蓑毛自然観察の森活用指針	
数値目標	指標			現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
	緑水庵の年間利用者数			919	2400
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑水庵は、休憩地点としての潜在的魅力を多く含み、あそこに行くからこそ体験できるものがあるため、一度案内した参加者はリピーターになってきている。駐車場の整備をしたうえで、休日市場やキッチンカーの提供があればお客様が足を止め買い物等をしてもらえる可能性が高い。 ・ 緑水庵で地域の人が作った料理でもてなすことなどができると、地域と来訪者が交流できる拠点になる。 ・ 里山林を活用した散策路などがあると良い。 				

② 菜の花台園地の休憩施設としての魅力向上					
取組内容	菜の花台園地は来訪者を惹きつける優れた景観がある一方で、人を滞留させるサービスが不足しており、その魅力を十分に生かすことができていません。そのため、地域振興や利用者の利便性の向上を目的とした飲食サービスの提供などに向けた検討や、SNSでの拡散が期待される写真スポットの整備、菩提方面からの散策路の整備等を行うことで、滞在拠点としての魅力の向上を図ります。				
主 体	秦野市、神奈川県				
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画	
	◎	⇒	⇒	秦野市観光振興基本計画	
数値目標	指標			現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
	滞在拠点の魅力向上に向けた写真スポットや散策路等の整備数			—	2
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> 菜の花台に売店があれば、それを目標に観光する方も多く、また治安維持にもつながると考える。 菜の花台はサイクリストにとって自転車を置いて写真を撮りたい場所だが、置ける設備がないため、自転車を立てるラックなどがあると良い。 				

③ 来訪者の満足度を高める取組みの充実					
取組内容	登山者やサイクリスト等の来訪者の満足度を高めるため、蓑毛周辺への駐車場の確保や公共施設等へのサイクルラックの設置、Wi-Fi環境の充実など、利便性の向上に努めます。				
主 体	秦野市、民間事業者				
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画	
	◎	⇒	⇒	緑水庵・蓑毛自然観察の森活用指針 秦野市観光振興基本計画	
数値目標	指標			現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
	公共施設へのサイクルラックの設置箇所数			1	4

<p>施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイクルラックがあると、サイクリストも各施設に今まで以上によりやすくなるのではないかと。 ・ ヤビツ峠は駐車場に限られており、新たに作ることは難しい。蓑毛に駐車場が増えれば、登山者の利便性や回遊性が向上するのではないかと。
-------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策2 トイレ環境の充実

<p>取組内容</p>	<p>トイレの印象が悪いと観光地全体の印象が悪くなるなど、来訪者の快適な滞在のためには、清潔・安心で使いやすいトイレ環境が必要不可欠です。</p> <p>そのため、トイレの印象をおもてなしの一つとして捉え、日常管理とあわせて、施設の適切な補修や修繕を行い、清潔で快適に使用できるトイレ環境の充実を図ります。</p> <p>特に、ヤビツ峠公衆トイレは、表丹沢の玄関口として、多くのハイカーやサイクリストなどが利用する設置場所の特性を踏まえた快適なトイレ環境の早期実現に向け、地域の声を聞きながら、検討を進めます。</p>			
<p>主 体</p>	<p>神奈川県、秦野市</p>			
<p>実施計画</p>	R5年度	R6年度	R7年度	<p>主な関連計画</p> <p>秦野市観光振興基本計画</p>
	◎	⇒	⇒	
<p>数値目標</p>	<p>指標</p>		<p>現状値 (令和5年度)</p>	<p>目標値 (令和7年度)</p>
	<p>ヤビツ峠公衆トイレ利用者の満足度 (において、清潔さ、明るさ)</p>		<p>において 47% 清潔さ 45% 明るさ 34%</p>	<p>において 80% 清潔さ 80% 明るさ 80%</p>
<p>施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所によって、トイレの形式のベストは違う。山頂だと水を出さないトイレもあるが、利用の頻度によっても違う。 ・ 水汲み場もトイレもきれいにする必要がある。山はトイレのきれいさで行くかどうか迷うくらい重要だからきれいにする必要がある。 			

施策3

眺望・景観の整備

<p>取組内容</p>	<p>県道70号沿いは眺望に優れる地形となっておりますが、現状は木々のせり出しや過度な繁茂がみられ、その魅力を十分に生かし切れていません。また、道路沿いはスギやヒノキの針葉樹などが多く観光資源になりうる植生が少ない状況です。</p> <p>① 菜の花台やヤビツ峠レストハウス、蓑毛自然観察の森周辺等について、修景に配慮した森林整備を実施し、眺望の改善を図ります。</p> <p>② 宝蓮寺周辺や県道70号沿い等にモミジや桜を植樹するなど、観光資源としての景観の充実と多様化を図ります。この際、植樹や管理のルールについても検討します。</p>				
<p>主 体</p>	<p>① 秦野市 ② 秦野市、市民・活動団体、民間事業者</p>				
<p>実施計画</p>	<p>R5年度 ○</p>	<p>R6年度 ◎</p>	<p>R7年度 ⇒</p>	<p>主な関連計画 秦野市森林整備計画 秦野市観光振興基本計画</p>	
<p>数値目標</p>	<p>指標</p>			<p>現状値 (令和4年度)</p>	<p>目標値 (令和7年度)</p>
<p></p>	<p>修景に配慮した森林整備を実施したエリア数</p>			<p>—</p>	<p>2</p>
<p>施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 菜の花台の周りの木の伐採、景観整備が必要。もともとは木々の背が低かったが今は繁茂し、展望台に上がらないと景色が良く見えない。 ・ 車、自転車を停めて写真を撮りたくなるようなビューポイントがあると良い。 ・ 昭和30年頃は県道70号沿いに桜の木が多くあった。標高が高いから咲く時期が遅れて、市街地とタイミングをずらすことができる。ヤマザクラを植えるなどして、復活させると良い。 ・ 緑水庵の紅葉や宝蓮寺周辺の紅葉は美しい。紅葉はまとまってあると美しいため、その辺りにモミジなどを植えて、紅葉の名所にするとう良いと思う。 				

施策4 遊休資産の活用と鳥獣被害対策

取組内容	<p>里地里山の雑木林や放置竹林、耕作放棄地などのやぶ払いや伐採等の環境整備を実施するとともに、整備後に農業体験などの体験プログラムに活用するなど、作業や住民との交流を通じて、参加者の里地里山保全再生への理解の醸成と、本エリアとの関係性の構築を図ります。これにより持続的な里地里山の維持管理及び鳥獣被害防止につなげます。</p> <p>また、空き家バンク制度の情報提供に努め、適切な活用などを推進するほか、農家レストラン^{※21}や農家民泊^{※22}など、地域の新たな拠点づくりを促進することで、滞在環境の魅力の向上につなげます。</p> <p>なお、これらの取組みは、地域の理解と協力を得ながら進めていきます。</p>			
主 体	秦野市、市民・活動団体、民間事業者			
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画
	○	◎	⇒	秦野市森林整備計画 秦野市都市農業振興計画
数値目標	指標			現状値 (令和4年度)
	環境整備や遊休資産を活用したイベントの実施回数(年間)			目標値 (令和7年度)
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> 竹やぶの整備が、地域外の人々の協力によって進められている事例がある。ただボランティアでやってもらうのではなく、楽しみや遊びに変えられると良いのではないかと。 秦野の雑木林は、伊勢原市や厚木市と比べて残っていると思う。そこに手を加えて、都会の人々を呼び込む仕組みを作ることができれば良いのではないかと。地域の人々の協力も得やすいし、地域にお金も落ちる。 古民家を活用した古民家カフェ等、休憩・地域と交流する拠点を作ることができれば良いと思う。 			

※21 農家レストラン：農家が自ら生産した農作物や、地域の食材を使った料理を提供する事業のこと。

※22 農家民泊：宿泊や食事に加えて農作業や家事・地域の伝統行事や野外活動など農村の暮らしを体験できる民宿のこと。

基本方針 3 交通ネットワークの充実

地域を周遊できる新たな交通手段の導入に向けた検討を進め、回遊性の向上と滞在時間の延長を図るとともに、道路環境の充実に向けた取組みを進め、快適で安全・安心な交通ネットワークの充実を図ります。

施策 1 レンタサイクルの検討

取組内容	エリア内の回遊性向上や県道70号のシークエンス景観 ^{※23} の活用、周辺地域の活性化を図るため、電動自転車を含めたレンタサイクルのニーズ調査を実施するとともに、導入について検討します。				
主 体	秦野市、民間事業者				
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画	
	○	◎	⇒	秦野市観光振興基本計画	
数値目標	指標			現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
	レンタサイクルの拠点数			—	2
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ E-bikeのレンタルがあると子どもやパートナーと来ることができる。 ・ E-bikeはエンジンの音がないから、風の音など、周りの音が聞こえるのが良い。ヤビツ峠の自然豊かな環境に適しているのではないかと可能性を感じている。 				

※23 シークエンス景観：視点を移動させながら次々と移り変わっていくシーンを継続的に体験する景観のこと。

施策2 周遊型交通サービス^{※24}等の検討

取組内容	現在、ヤビツ峠と駅や観光施設を結ぶ交通手段が限定されていることから、周辺の賑わいを創出するに当たっての課題となっています。そのため、来訪者の利便性や回遊性の向上を図るため、既存の路線バスやタクシーといった公共交通のほか、観光型MaaS ^{※25} を活用した利用者の予約に応じて運行する周遊型交通サービスなどについて、地域のニーズを踏まえながら交通事業者と連携し検討します。			
主 体	秦野市、民間事業者			
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画
	○	◎	⇒	秦野市観光振興基本計画
数値目標	指標			現状値 (令和4年度)
	周遊型交通サービス運行台数			目標値 (令和7年度)
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンデマンドで何人が集まったら自由なところ、魅力あるところを周遊できるというのが良い。 ・ 最少催行人数を定められれば、ツアーとして始めてみるのも良いかもしれない。旅行業の中で考えることもできると思う。 			

※24 周遊型交通サービス：ここでは、来訪者が複数の観光施設間を効率よく周遊・循環できる交通サービスのことをいう。一例としては、複数の目的地を循環するオンデマンドの乗合タクシー等がある。

※25 観光型MaaS：主に観光客に対して地域の公共交通機関や商業・観光施設など交通以外と連携し、ワンストップサービスを提供するMaaSの形態の一つのこと。また、MaaSとは、Mobility as a Serviceの略で、地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ単位での移動ニーズに対して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスをいう。

施策3

道路環境の充実

取組内容	<p>ヤビツ峠をはじめとした観光スポットまでのアクセス道路である県道70号は、観光客などが各スポットまで自動車で移動するほか、ヤビツ峠まで公共交通バスが走行していますが、一部区間において幅員が狭小であることからすれ違いが困難であるなどの課題があります。</p> <p>また、近年では多くのサイクリストに利用されていることから、走行すべき部分や各スポットまでの進行方向をより明確かつわかりやすく周知する必要があります。</p> <p>① 自動車が安全安心に走行できる交通環境を整備及び維持するために、県道70号への待避所の設置などの検討を道路管理者と行います。</p> <p>② 県道70号の道路上に積もっている土砂や道路にせり出した草木などにより転倒や接触等の交通事故を防ぐため、地域ボランティア等による定期的な清掃活動を通じた、交通環境の維持に取り組むことで、「日本一きれいな峠」を目指します。</p> <p>③ 県道70号へのサイクリストに対する自転車用のナビマークの設置について、検討を道路管理者と行います。</p> <p>また、周辺市道である市道58号線や市道53号線に、自転車用のナビマークの設置などを順次進めます。</p>				
主 体	<p>① 秦野市</p> <p>② 市民・活動団体、民間事業者、秦野市、神奈川県</p> <p>③ 秦野市</p>				
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画	
	○	⇒	⇒	—	
数値目標	指標			令和4年度 (現状値)	令和7年度 (目標値)
	ボランティア等による県道70号の清掃活動の実施回数(年間)			3	5
施策の背景となるヒアリングやワークショップの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイクリストが増えており、歩行者や、自動車、バスと接触の危険がある。 ・ 草木が道路にせり出しているとそれを避けようとすることで、余計に道が狭く感じられ、自転車と車が接触する危険性が増える。 ・ 有志を募り道路の清掃活動をすることで、通行の安全性を高めるとともに、「日本一きれいな峠」としてPRしていきたい。 				

基本方針 4 人を起点とした魅力づくりの推進

地域資源や情報を効果的に結び付け、地域の魅力を高めていくために、市民・活動団体、民間事業者などが横断的に協力する体制を構築します。また、認定ガイド制度や地域住民や外部人材を巻き込む仕組みをつくり、魅力を高める仲間づくりを推進します。

施策 1 包括的な推進体制の構築

<p>取組内容</p>	<p>様々な活動団体・民間事業者等が地域資源を活用したサービスを提供していますが、それぞれの活動内容が見えにくい現状があり、情報の獲得機会が失われています。</p> <p>そのため、地域活動団体・民間事業者を中心に構成するコーディネート組織を設置し、各主体の連携を促します。この組織は、構成メンバーが気軽に相談ができるような運営とし、互いの意見や考えを地域内で共有できるような体制を検討します。また、本計画に基づく施策を円滑に進めるために、必要に応じてプロジェクト組織等の体制づくりも検討します。</p> <p>また、地域住民や外部との交流、イベントの開催など、地域内外をつなぐ総合的な窓口としての役割も果たすような体制を検討します。</p> <p>■推進体制イメージ</p> <pre> graph LR Aino[秦野市] -- "連携・情報提供" --> Org["ヤビツ峠・養毛 未来会議 (仮称) 地域団体・事業者等"] Org -- "意見・参加・協力" --> Residents[地域住民] Org -- "情報発信" --> Residents Org -- "意見・参加・協力" --> Exchange[交流人口 関係人口] Org -- "情報発信・ プログラム提供" --> Exchange </pre> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公認ガイド育成講座の実施 ・ 定例会議 ・ 各団体・事業者との連携 ・ プログラム、ガイドの所有 ・ イベントの開催 ・ 地域住民・交流人口・関係人口との意見交換会 				
<p>主 体</p>	<p>市民・活動団体、民間事業者、秦野市</p>				
<p>実施計画</p>	<p>R5年度</p>	<p>R6年度</p>	<p>R7年度</p>	<p>主な関連計画</p>	
	<p>◎</p>	<p>⇒</p>	<p>⇒</p>	<p>—</p>	
<p>数値目標</p>	<p>指標</p>			<p>現状値 (令和4年度)</p>	<p>目標値 (令和7年度)</p>
	<p>推進主体組織の参加人数</p>			<p>—</p>	<p>15</p>
<p>施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等</p>	<p>・ 各団体や事業者が、お互いが何をしようとしているか見えない。地域のメンバーが集る場所や機会が必要だとは思う。例えば交通事業者との連携でも、安全教室等（自転車からはこう見える、バスからはこう見える、というような内容）ができるの良い。</p>				

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の財産・資源をうまく活用するには地域の理解が必要。個人や任意団体だといろいろな制限があるため、法人組織を検討する必要がある。 ・ 蓑毛・ヤビツ峠のプレイヤーが一体でサービスを提供することが必要である。 ・ 地域商社の立ち上げが必要ではないか。
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策2 ガイド人材の育成講座の実施

取組内容	<p>本エリアで活動する活動団体や民間事業者が提供する様々な体験プログラムは、魅力の一つとなっています。一方でそれらの内容は個々の提供者に依存していることから体験の質が一定でなく、さらには担い手の高齢化や人材不足により体験プログラムの安定的な提供体制にも課題があります。</p> <p>そのため、体験プログラムの質の担保や担い手の育成を目的としたガイド育成講座を実施します。講座の受講者には試験を実施し、一定のクオリティが認められた方を秦野市の公式ガイドとして認定します。</p>				
主 体	秦野市				
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画	
	◎	⇒	⇒	秦野市観光振興基本計画	
数値目標	指標			現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
	認定ガイド数			—	8
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の魅力を感じてもらい、来訪者の満足度を高めるためには、ガイドの確保と質の向上が必要だと思う。 ・ 後継がない。継続的にイベントを手伝ってくれる人はいるが、運営そのものに関わる人はあまりいない。 ・ ガイドもボランティアだと、継続性やガイドスキルに課題が出てくる。しっかりガイド料をとれるようなガイドが増えると持続可能なものになるし、来訪者の満足度の向上につながる。 ・ ホスピタリティのある地域にしたい。 				

施策3

地域住民や外部人材を巻き込む仕組みづくり

<p>取組内容</p>	<p>人材不足が生じている中、今後は地域の人材だけで取組みを進めていくことは限界があります。エリア周辺の魅力や可能性、課題に興味を持つ人を巻き込みながら、地域住民や地域事業者がともに事業を実施する機会の創出を図ります。</p> <p>地域外からテーマに興味ある人材 × 地域でテーマに関係する人材</p> <p>地域外人材は市が設定するテーマをもとに募集をかけ、選考を実施し、世代、性別、職業などが異なる混成チームを編成。多様なものの見方、それぞれの強みを活かせるチームにすることで想定を上回る、アイデアの質・量を生み出していきます。</p>				
<p>主 体</p>	<p>秦野市、市民・活動団体、民間事業者</p>				
<p>実施計画</p>	<p>R5年度 ◎</p>	<p>R6年度 ⇒</p>	<p>R7年度 ⇒</p>	<p>主な関連計画 —</p>	
<p>数値目標</p>	<p>指標</p>			<p>現状値 (令和4年度) —</p>	<p>目標値 (令和7年度) 1</p>
<p>施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係人口が仲間や地域の人を巻き込みながら起業して、地域を活性化できるフィールドがあると良い。 ・ 地元の企業と何かタイアップできると良いのではないか。 ・ 地域内外との連携でプロジェクトを生み出すことができると良い。 ・ イベントを通じて内外の相互理解を促し、一体感を創出できると良い。 				

基本方針 5 情報発信の充実

地域の魅力の認知度を向上させるため、地域内外と連携した効果的な情報発信を行います。また、環境保全や安全対策等につながるマナーの啓発活動を行います。

施策 1 観光情報等の充実

取組内容	<p>本エリアの多様な観光資源や体験プログラム等の情報が、地域内外に十分に知られていないという課題があります。そこで時宜に応じた観光情報の提供やパンフレット作り等を、エリア内の事業者等と連携して行うことで、訪問回数の増加や回遊性の向上につなげます。</p> <p>また、表丹沢公式ホームページ「OMOTAN」やSNS等を通じた情報発信を行うほか、はだのふるさと大使^{※26}やインフルエンサー等を活用したPR動画の作成等を行うなど、観光情報の充実とその提供の多チャンネル化を図ります。</p> <p>さらに、表丹沢の情報発信拠点である表丹沢野外活動センターや、田原ふるさと公園などの周辺施設との連携を図るとともに、伊勢原市や厚木市、清川村等の近隣自治体や県及び交通事業者などで組織している丹沢大山観光キャンペーン推進協議会などの協議会と連携し、イベントの開催や広域の観光パンフレットの作成など、一体的なPRを行います。</p>			
主 体	秦野市、関係自治体、市民・活動団体、民間事業者			
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画
	◎	⇒	⇒	
数値目標	指標		現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
	エリア内に関連したPR動画の再生回数		27万	30万
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域でパンフレットを作成するなど、伊勢原市や厚木市などの近隣自治体との連携が深まるともっと魅力が出てくるのではないかと。 ・ 観光客に近辺で他に回るところがないかよく聞かれる。情報発信が足りていないと思う。自分で発見した楽しいスポット等をInstagramでタグ付けすると地図上にプロットされたり、周りの人も利用できたりすると面白い。 			

※26 はだのふるさと大使：本市にゆかりがあり、様々な分野で活躍している著名人を通じて、本市に関する情報を発信し、市のイメージアップを図ることを目的に設置された大使。

施策2 マナー等の情報発信の充実

取組内容	<p>本エリアは、登山者やサイクリスト、トレイルランナーなどが多く、一部のマナーの悪い利用者の行動により、地域住民や来訪者、エリアの環境の安全を脅かしかねません。貴重な自然を守り、地域住民と来訪者が良好な関係を築いていくためのマナー等の徹底などの対策が必要です。</p> <p>そのため、関係機関や民間事業者等と連携して自転車と歩行者・自動車の共存を目指し、自転車の安全走行の遵守を目的とした啓発やマナーアップ活動を実施します。</p> <p>また、不法投棄を未然に防止するための啓発看板を設置するほか、安全登山のための心得や国定公園を楽しく利用するためのマナー（登山道はずれない、トイレマナー、ゴミの持ち帰りなど）等の効果的な周知・啓発活動を継続的に行います。</p>				
主 体	秦野市、神奈川県、関係自治体、市民・活動団体、民間事業者				
実施計画	R5年度	R6年度	R7年度	主な関連計画	
	◎	⇒	⇒	秦野市交通安全計画 秦野市観光振興基本計画 秦野市ごみ処理基本計画	
数値目標	指標			現状値 (令和4年度)	目標値 (令和7年度)
	啓発イベント等の開催数（年間）			3	3
施策の背景となるヒアリングやワークショップでの主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来訪者（自転車、車、登山の歩行者等）の道路マナーや、大型ごみの不法投棄、ゴミのポイ捨てが問題。 ・ 蓑毛地区の道路はサイクリストも多く利用するが、地元の方と交流や意見交換をする機会は今まであまりなく、お互いに顔を合わせる取組みなどは行われていなかった。そのため、地元の方が抱えている不安や課題を、サイクリストにどうしたら理解してもらえ、お互いに相手を思い合った行動につなげられるかが大切だと思い、取り組んでいきたいと思っている。 ・ ゴミの持ち帰りや環境に良いこと、自然を守る行動をするように啓発することが重要。 ・ 長野県と新潟県の境にある信越トレイルでは、「信越トレイルトレッキングルール」を定め、トレイル内を歩く、ゴミは全部持ち帰り、表示された決まりを守る等のルールを整えている。 				

第4章 計画を実現するために

1 推進体制

本エリアの魅力をより一層高めていくためには、市民や活動団体、来訪者、民間事業者、行政の各主体の役割を明確にした上で、各主体の役割に応じた連携・協働の取組みが重要となります。各施策において、必要に応じてプロジェクト組織等の体制づくりを行いながら、取組みを推進していきます。

(1) 行政の役割

本市は、上位計画や本計画に基づく施策を円滑に進めるために、滞在環境や道路環境の充実などのほか、市民や活動団体、民間事業者の活動をサポートするために、人材育成や事業推進のための支援等を検討します。また、これらの取組みは、地域住民や地権者等の理解と協力を得ながら進めます。

また、関係部局間での連携を図るほか、国や県をはじめ、関係市町村や市民、民間事業者などとの協働による取組みや各種調整を行うとともに、効果的な情報発信を進めます。

(2) 市民及び活動団体の役割

市民及び活動団体は、本計画が実現することにより、地域の魅力や生活の質の向上につながることを認識し、日常の暮らしや地域の活動への主体的な参加を通して、地域資源や地域内外の人材に触れる機会を増やすことで、一人ひとりが地域に誇りと愛着を持つとともに、「ホスピタリティの心」を持って来訪者を温かく迎えるよう努めます。

また、行政や民間事業者と連携しながら、地域の文化・伝統の継承に協力するとともに、来訪者が快適かつ安全に楽しむことができる地域づくりや景観づくりへ積極的に参加し、自らが地域の魅力を発信することで、それらの魅力を次世代へとつなげていきます。

(3) 民間事業者の役割

秦野市観光協会及び秦野市森林組合、観光事業者、交通事業者等の民間事業者は、地域産業の担い手として、市民や活動団体、行政と連携しながら、積極的に地域資源を発掘し、磨き、つなげていくことで、地域の魅力を向上させる取組みを進めます。

また、自らの事業活動において、自然や景観、歴史文化など、地域が持つ資源を損なうことのないよう、環境保全活動等に協力します。

(4) 来訪者の役割

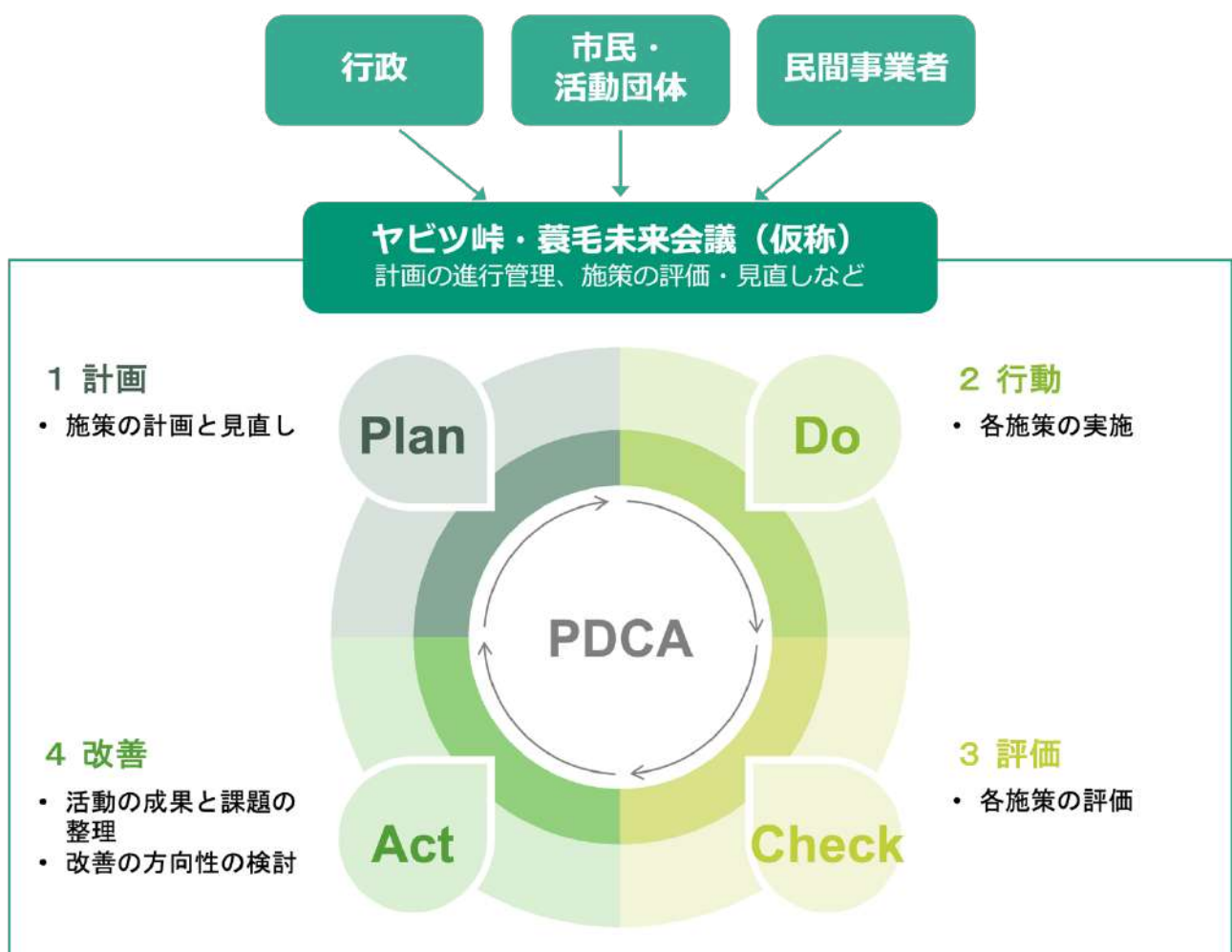
地域の環境をより良い状態で次世代へとつなげていくには、地域内だけではなく、来訪者の協力が欠かせません。来訪者の一人ひとりが、本市の魅力を理解し、マナーを守るとともに、ゴミの持ち帰りや清掃等、環境保全の取組みに努めます。

2 進行管理の考え方（PDCA）

本計画は、表丹沢魅力づくり構想のアクションプランであることから、上位計画との整合性を図りながら、コンセプトの実現のため、本計画に掲げた具体的な施策を進めていきます。

年度ごとに各施策の振り返りと進捗状況の確認を行うことで、事業・活動の成果と課題を明確化するとともに、達成できなかった施策については、その要因や問題点を分析し、その後の施策に反映させていきます。

また、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が依然として影響を及ぼしていることや、世界的な燃料価格の上昇など、ライフスタイルや社会生活に変化を及ぼす可能性のある現象が起きています。本計画についても、各施策の成果や進捗を踏まえるとともに、様々な社会変化等に対して柔軟かつ的確に対応するため、必要に応じて見直しを図ります。





ヤビツ峠・蓑毛周辺魅力向上計画

令和5年(2023年)8月 発行

編集・発行 秦野市環境産業部はだの魅力づくり推進課

住 所 神奈川県秦野市桜町一丁目3番2号

T E L 0463-82-5111(代表)

F A X 0463-82-6793

E-mail miryoku@city.hadano.kanagawa.jp

市ホームページ <https://www.city.hadano.kanagawa.jp>